

Hokkaido University News

北大時報

平成27年

10

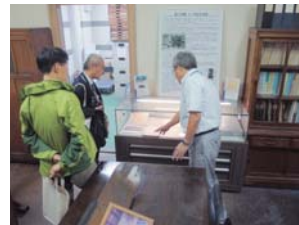
No. 739 October 2015

北海道大学ホームカミングデー2015の開催

お知らせ

・医療費通知事業の実施





ホームカミングデー2015

1 第3期中期目標期間に向けて

■ 全学ニュース

- 2 北海道大学ホームカミングデー2015の開催
- 17 元総長 中村睦男名誉教授が「平成27年度北海道功労賞」を受賞
- 17 公益財団法人北海道大学クラーク記念財団の解散及び事業継承のお知らせ
- 18 北海道大学交流デー（韓国・江原大学校）を開催
- 19 平成27年度北海道大学インターンシップを実施
- 20 北大フロンティア基金
- 22 平成27年度北海道大学フロンティア奨学金受給者の決定
- 22 平成27年度北海道大学鈴木章科学奨励賞—自然科学実験—被表彰者の決定
- 22 平成27年度小島三司奨学金受給者の決定
- 23 平成27年度第1回「北海道大学TF研修会」を開催
- 23 「アクティブ・ラーニング導入ワークショップ」を開催
- 24 「第27回北海道大学教育ワークショップ」を開催
- 25 生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設で慰霊祭を挙げる
- 25 アイヌ民族の文化に触れる「ホリデーインひだか」を開催
- 26 北海道で国際色豊かなサマースクールを開講—「大学の世界展開力強化事業」2事業で—
- 27 国際連携研究教育局(GI-CoRE)人獣共通感染症グローバルステーションが第3回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議を開催
- 28 米国スタンフォード・ヘルスケアと日立の来訪
- 28 平成27年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を実施
- 29 平成27年度利益相反セミナーを開催
- 30 第12回八大学産学官連携関係本部長会議を開催
- 30 「研究開発のための各種支援制度セミナー」を実施
- 31 「第4回北大発ベンチャー促進懇談会9月例会～New Trend! エレクトロニクス商社のベンチャー支援～」を実施
- 32 女性研究者学際交流シンポジウム「大学におけるメンタリング再発見～タテヨコナメのつながりが生み出すもの～」を開催

■ 部局ニュース

- 33 農学研究院で食資源研究棟竣工記念式典を挙げる
- 34 薬学研究院・薬学部で「北海道大学薬学部創立60周年及び総合研究棟建築・管理研究棟改修完成記念式典」を開催
- 35 薬学研究院で「The 1st HU-TMU-KU Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences」を開催
- 36 平成27年度 地球環境科学研究院公開講座「北海道の野生生物：自然史と環境変化への応答」が終了
- 36 生命科学FD研修「就活後ろ倒し・留学生支援と学生指導を考える」を開催

- 37 平成27年度文学研究科FD研修会を開催
- 38 文系4研究科・学部及びスラブ・ユーラシア研究センターで消防訓練を実施
- 38 工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
- 39 工学研究院で寄附分野「エコセーフエネルギー分野」最終シンポジウムを開催
- 40 医学部・歯学部合同慰霊式を挙げる
- 40 動物慰霊式を挙げる
- 42 リーディングプログラム2期生採用式を挙げる 物質科学のグローバルリーダーをめざして活動開始
- 43 低温科学研究所が宇宙航空研究開発機構（JAXA）平成27年度第一次観測ロケットによる微小重力実験を実施
- 44 北海道大学病院で災害医療訓練、CBRNE災害対策訓練を実施
- 45 北海道大学病院で平成27年度地域連携懇話会を開催
- 45 附属図書館北図書館で札幌市立高等学校「職場体験学習」の生徒を受け入れ
- 46 附属図書館で北海道大学インターンシップ・図書館実習を実施

■ お知らせ

- 47 医療費通知事業の実施

■ 博士学位記授与 48

■ レクリエーション

- 55 平成27年度 第45回札幌社会人サッカーリーグに出場
- 56 平成27年度学内教職員フットサル大会の開催
- 57 教職員卓球大会の開催 —団体戦・ペア・個人戦—

■ 諸会議の開催状況 58

■ 学内規程 59

■ 表敬訪問 61

■ 人事 62

- 65 部局長等（再任）紹介
- 66 新任教授紹介

■ 訃報

- 67 名誉教授 寺沢 浩一 氏
- 68 名誉教授 八鍬 利郎 氏
- 68 名誉教授 五十嵐 清 氏



農学研究院
食資源研究棟



地球環境科学研究院
公開講座「北海道の野生生物：自然史と環境変化への応答」



北海道大学病院
平成27年度地域連携懇話会



附属図書館
北海道大学インターンシップ・図書館実習

第3期中期目標期間に向けて

総長 やまぐち 山口 けいぞう 佳三



来春、平成28年度より、国立大学法人は、第3期中期目標期間に入ります。私自身、総長選挙に立候補した頃より、第3期に向けてのメッセージを述べてまいりました。第3期は、国立大学法人にとって、生き残りをかけた時代となるのではないかと議論が必要だろうと議論してまいりました。この稿では、第3期に向けた準備状況と、現在見えてきた様相を、本学の構成員の方々にお知らせし、共通認識を持っていただく機会としたいと思います。

私が総長に就任した平成25年度、文部科学省から国立大学改革プランが出され、第2期の残余期間は、改革加速期間と位置付けられました。この間、すべての学部におけるミッションの再定義が実施され、大学のガバナンスに関する中教審答申が出されました。学校教育法、国立大学法人法の改正が行われ、本年4月に施行されたことは記憶に新しいところです。また、昨年来、第3期に向けた運営費交付金の在り方が各方面で議論されてきました。この議論に呼応する形で、平成26・27年度の概算要求では、これまでの予算要求の仕方が変化してきています。平成26年度概算では、運営費交付金の特別プロジェクト予算について、部局単位での予算要求ではなく大学全体での構想戦略としての説明を求められることとなりました。さらに、平成27年度概算では、運営費交付金の約5%を学長裁量経費とすることが求められました。

こうした流れのなかで、総長就任1年を期して、「北海道大学近未来戦略150」を策定し、本学の4つの基本理念を敷衍して、創基150年を迎える2026年に向けた戦略を立

てました。昨年度には、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」タイプAに本学の構想「Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ～世界に開かれ世界と協働～」が採択されましたが、この構想は「北大近未来戦略150」の10年の実行プランとなっています。また、昨年度前半には、私が各部局を回り、部局長をはじめ執行部の方々と懇談の時を持ち、これらの構想について説明を行い、各部局の将来構想についても聞かせていただきました。その後、安田和則理事・副学長の下、企画・経営室で、各部局からの意見も集約して、第3期中期目標・中期計画が練りあげられて来ています。

今年に入り、第3期の運営費交付金の配分方式が徐々に明らかにされてきています。まずは、国立大学に3つの重点支援の枠組みが提示され、このうちから一つの選択が求められ、本学は3番目の枠組み「世界最高水準の教育研究の重点支援を行う大学」に他の15大学とともに、手を挙げました。実際、この重点支援の枠組みの選択が予算にどう影響するのは、今の時点では判然としません。また、これまでの特別プロジェクト予算は、大学の機能強化予算として項目経費の区分なく袋物として財務省に提出されています。実際の予算の概要は、年末まで明示がない模様です。

予算折衝の過程で明らかになってくる部分もあると思いますが、例年以上に予算編成過程が気になる年となりそうです。いずれは、年頭の挨拶でご報告できることを期待しています。

■ 全学ニュース

北海道大学ホームカミングデー2015の開催

— 第4回ホームカミングデーを終えて —

広報室総長補佐 にしぐち のりひこ 西口 規彦

9月26日（土）、「Be ambitious again!」をモットーに、「北海道大学ホームカミングデー2015」を開催しました。少し肌寒い秋らしい天気の中、多くの同窓生が札幌キャンパスに集い、盛況の内に幕を閉じました。

同窓生を迎えるに当たり、全学行事と部局・同窓会が主催する行事を企画しました。全学行事としては、クラーク会館講堂を会場に「歓迎式典・記念講演会」を開催しました。講演会に続いて、現役学生による歓迎のステージ、恵迪寮同窓会の有志による寮歌斉唱が行われ、様々な世代の同窓生が若い世代の学生達と一堂に会し、同窓生同士のさらなる繋がりを期待できる会となりました。

全学行事の終了後には、ほっかいどう同窓会が主催するランチパーティで交流を深め、学生時代を懐かしみながら

各学部等へ足を運ぶ同窓生が多く見られました。

多くの部局や同窓会が25日（金）から26日（土）にかけて、ホームカミングデー開催に合わせて講演会や研究室見学会、懇親会、同窓会総会などを開催し、まさに大学全体の同窓会となりました。各部局ではそれぞれ、現役学生と同窓生、旧教職員との交流を図る企画を実施したり、在学生の家族が参加する企画を行ったりと、様々な形の交流の場が広がりました。

次回、第5回のホームカミングデーは来年、平成28年9月24日（土）に予定しています。来年も各部局・同窓会等のご協力を得て、同窓生の皆様に喜んでいただけるイベントにしていきたいと考えています。再び多くの同窓生が集うことを願っております。



当日の様子

総務企画部広報課

歓迎式典・記念講演会

歓迎式典・記念講演会

9月26日(土) 10:00~11:45 クラーク会館講堂 参加者約260名

ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」を行いました。

会場となったクラーク会館講堂が多くの同窓生や関係者で埋まるなか、北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」「永遠の幸」の演奏で式典は幕を開けました。

司会は本学経済学部卒業生である北海道放送株式会社(HBC)の船越ゆかりさんが務め、最初に、山口佳三総長が「進化する北海道大学」と題して本学の近況を報告し、「同窓生の皆様には本学の強力な応援団になっていただきたい」とのメッセージを伝えました。次に、石山 喬北海道大学連合同窓会会長が歓迎の挨拶として、国立大学を取り巻く環境とともに、連合同窓会の果たす役割や意義について話されました。

続いて、小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトに携わる理学研究院の塚本尚義教授が「ここまでわかった!『はやぶさ』による科学 何がわか

る?『はやぶさ2』による科学」と題して講演を行い、わかりやすく、ユーモアを交えながら研究内容を説明しました。

そして、歓迎のステージでは、マンドリンクラブの北海道大学チルコロ・マンドリニスティコ「アウロラ」が、優しい曲調からダイナミックな曲まで4曲を披露し、会場に素敵な音色を響かせてくれました。

ステージの締めくくりは、「都ぞ弥生」の斉唱です。斉唱時には恵迪寮同窓会の呼びかけで役員等もステージに上がり、客席の方々は席を立ち隣の方と肩を組み、会場が一体となりフィナーレを迎えました。同窓生の皆様には本学の“今”を体感していただけたことと思います。

また、式典開始前には、オープンエデュケーションセンターの藤田良治准教授が制作した映像を会場内スクリーンで上映し、本学の特色や色彩豊かなキャンパスを紹介しました。



交響楽団による演奏



司会を務めた船越さん



本学の近況を報告する山口総長



歓迎の挨拶を述べる石山会長



講演する塚本先生



アウロラによる歓迎のステージ



恵迪寮同窓会有志の皆様



「都ぞ弥生」斉唱で参加者が一体となった会場

部局・同窓会主催行事

文学研究科・文学部，教育学院・教育学研究院・教育学部，法学研究科・法学部，経済学研究科・経済学部

公開シンポジウム・同窓会総会・同窓会合同懇親会

9月26日（土）14：00～19：00 人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）103室等 参加者171名

文学部・教育学部・法学部・経済学部の4部局による共同開催として、「北海道新幹線開業が意味するもの～津軽海峡を越え北へ、そして未来へ向けて～」と題し、北海道新幹線が北海道経済に与える影響などについて考えることを趣旨に公開シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、山口佳三総長の挨拶後、前半部門は、3人の講師による各講演が行われ、後半部門は吉見宏経済学研究科長を総合司会に迎え、活発なパネルディスカッションを展開しました。

「旅と鉄道」編集長の芦原 伸氏が

ら新幹線の旅の面白さや意義、特に北海道に新幹線がやってくることで新たな楽しみ方や旅の可能性について、元株式会社AIRDO副社長の小林 茂氏から北海道に新幹線が来ることの経済的意義について、JR北海道観光開発室長の長谷川潤氏からJR北海道にとっての意味や、今般の開通は函館までであることから道南圏への意義とそれ以外の地域、特に札幌を中心とした道央圏への意味合いについて、意見が述べられました。

来年3月26日の北海道新幹線開業まで半年となり、2030年度を予定する札幌延伸を見据えた課題はタイムリーで

市民の関心も高いことから、同窓生に加えて一般市民など約170名が訪れ、会場は満席となりました。予定の時間を超過する活発な意見交換が行われ、充実した講演シンポジウムは成功裡に終了しました。

公開講演会終了後は、各学部同窓会による総会、次いで、文学部・教育学部・法学部・経済学部同窓会による合同懇親会が行われ、こちらも多数の方が出席され、和やかな歓談のひと時を過ごし、学部を超えての交流を深め、盛会のうちに終了しました。



講演をする小林氏



パネルディスカッションの様子



参加者の様子

医学研究科・医学部

北海道大学医学部フラテ祭2015

9月26日（土）14：00～19：00 医学部学友会館「フラテ」 参加者141名

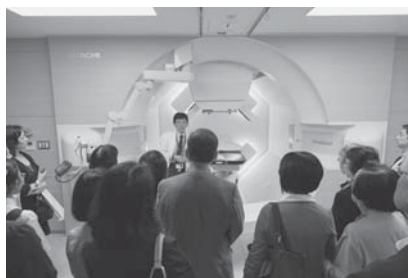
医学部では、ホームカミングデー部局開催行事として、「北海道大学医学部フラテ祭2015」を開催しました。

第1部の施設・キャンパスツアーでは、教員がツアーコンダクターとなり、参加者を案内しました。今年度は「陽子線治療センター」が新たな見学場所となり、参加者は大変興味深そうに説明に耳を傾けていました。また、バスで構内の名所を巡り、参加者は解説を聞きながら見学を楽しまれました。

第2部の講演会では、笠原正典医学

部長、寶金清博北海道大学病院長、公益財団法人札幌がんセミナーで理事長をされている小林 博北海道大学名誉教授が講演を行いました。小林名誉教

授の「がんに挑む がん学ぶ」と題した講演は、特に興味をそそる内容であり、参加者は熱心に聞き入っていました。



陽子線治療センターの見学の様子



講演する小林名誉教授

講演後は第11回目となる音羽博次奨学基金授与式が行われ、笠原医学部長より12名の学生に奨学金が授与されました。

第3部の交歓会では、フラテホールにて北海道大学合唱団とピアノ伴奏による「都ぞ弥生」「学友会歌」の合奏が披露され、その後、大研修室へ場所を移し、祝宴を開催しました。祝宴半

ばで、医学部公認サークルによるサークル活動の紹介がありました。現役学生による発表は大変好評で、学生父母から「文武両道で活躍する姿を見ることができて良かった」との感想をいただきました。現役学生・学生父母・同窓生・教員が一堂に会し和やかな歓談のひと時を過ごし、交流を深めることができました。



医学部公認サークルによる活動発表の様子

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科

保健科学研究院ホームカミングデー（分野紹介・講演会）

9月26日（土）13：30～16：10 保健科学研究院6階大会議室 参加者60名

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科では、保健科学研究院ホームカミングデー（分野紹介・講演会）と題し、保健科学研究院の各分野から最近の教育研究の諸活動などについて近況の報告と、卒業生の方々に講師としてお迎えし、これまでの歩み、現在の活動状況などをお話ししていただきました。

伊達広行研究院長からの開催の挨拶に始まり、分野紹介では、最近の教育研究について紹介し、講演会では、高室典子氏（株式会社ekbサービス（助産院エ・ク・ボ）代表取締役、一般社団法人北海道助産師会会長）に、「出会う母親たちが教えてくれた大切なことー地域における助産師活動を通してー」と題し、フロンティア精神をもつ助産師が社長になり、地域でおこした新しい事業展開とそこから生み出されたものについてお話ししていただきました。

次に、熊澤誠志氏（北海道科学大学保健医療学部診療放射線学科教授）に、「試される大志」と題し、クラーク博士に促されて抱いた大志とともに、紆余曲折、七転八倒、走りながら

考える日々の進捗をお話ししていただきました。

講演後の質疑応答も活発に行われ、好評のうちに終了しました。



開会の挨拶をする伊達研究院長



分野紹介の様子



高室講師による講演



熊澤講師による講演

歯学研究科・歯学部

最新の歯学研究と歯科医療を知る！！

9月26日（土）13：30～15：30 歯学研究科A棟2階歯学部講堂 参加者9名

歯学研究科・歯学部では、「最新の歯学研究と歯科医療を知る！！」と題して、本研究科所属教員による最新の研究及び臨床についての講演会を企画しました。

歯学部講堂で開催した講演会では、はじめに横山敦郎研究科長・学部長が歓迎の挨拶を述べた後、本年4月から使用可能となった多目的会議室等、新たな施設の説明を含め、歯学部の現況報告を行いました。

引き続き、歯科医療及び研究の最新トピックスについて、本研究科所属の各分野の教員が報告を行いました。

参加者はメモをとるなどしながら、各教員の説明に熱心に聞き入っていました。

その後、飯田順一郎副病院長（歯科担当）が、一昨年に移転を終え、診療

を開始した歯科診療センターの紹介を行いました。

歯学研究科・歯学部の講演会は、予定時間を超えて行われ、盛会のうちに終了しました。



横山研究科長・学部長による挨拶



飯田副病院長によるセンター紹介

獣医学研究科・獣医学部

獣医学部同窓会平成27年度通常総会、フォーラム「はばたけ未来のフロンティア・ベッツ」（交流会）、懇親会

9月26日（土）13：00～18：30 獣医学部講義棟会議室・講堂 参加者 84名

本年度も昨年度と同様に、獣医学部同窓会通常総会及びフォーラム（交流会）をホームカミングデーの日程にあわせて開催しました。

午後1時から開催した獣医学部同窓会平成27年度通常総会では、53名の同窓生にご参加いただき、平成26年度事業報告・決算の承認や平成27年度事業計画・収支予算案など、計5号の議案について審議しました。その後、84名の同窓生及び学生が参加して開催したフォーラム（交流会）では、「はばたけ未来のフロンティア・ベッツ」と題して卒業後10～60年目の各世代の同窓

生6名より、ご自身の経歴をお話しいただくとともに、就職を控えた学部5年生に向けてアドバイスやエールのお言葉をいただきました。各講演に対して5年生2～3名ずつに自分の将来の方向性を見据えた上で講演者に質問をしてもらいました。現役学生と同窓生との交流を図るという点では大変良い企画になったのではないかと思います。

懇親会は、午後5時15分より会議室にて開催され、約70名の学生・同窓生の参加があり、短い時間ではありましたが、交流を深めることができました。ホームカミングデーを同窓生に浸

透させる意味で、事前に卒業後節目の年となる各世代にホームカミングデーに合わせて同期会の開催をお願いしたところ、平成7年卒業の同窓生が約10名交流会と懇親会に参加していただき、大変盛況の会となりました。



フォーラムで講演する同窓生



フォーラムで質問する学生



記念写真



懇親会の様子

情報科学研究科

北楡会母校交流会

9月25日（金）13：30～19：30 情報科学研究科 参加者79名

9月25日（金）、工学部情報エレクトロニクス学科、情報科学研究科及び旧電気、電子、情報、生体系の各学科の同窓会である北楡会が、母校交流会を行いました。

最初に、大学側とOB・OG側から最近のトピックスについて講演を行いました。大学側からは、情報科学研究科の村山明宏教授から「電子と光の情報を結ぶ：量子ドットが拓く未来の光電情報変換」と題した講演がありました。OB・OG側からは、北海道ガス株式会社の栗田哲也部長から、「エネルギーの高度利用技術とスマートエネルギーネットワーク社会～期待が高まる工学および情報科学の役割～」と題した講演がありました。

引き続き、21研究室の大学院生が、所属する研究室の研究内容について

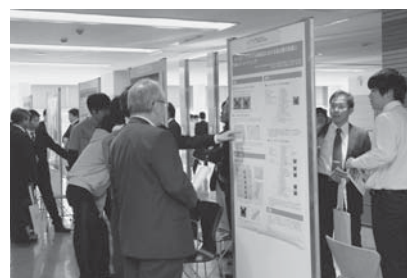
OB・OGにわかりやすく説明するというポスター発表を行いました。発表を担当する学生とOB・OGが熱心に研究内容を議論する姿が見られました。

次に、OB・OGが2グループに分かれ、各グループが実際に5つの研究室を訪問して研究活動の現場を見学するとともに、学生・教員と意見交換を行いました。



村山教授の講演

最後に、工学部食堂に場所を移し、立食パーティ形式で懇親会を行いました。OB・OG26名、職員・学生53名の合わせて79名が参加し、ポスター発表の表彰、情報エレクトロニクス学科の近況、学生の就職の話題等で大いに盛り上がりしました。最後は北海道大学応援団のリードにより「都ぞ弥生」を歌い、散会しました。



ポスター展示

水産科学院・水産科学研究院・水産学部／北水同窓会

水産学部卒業生のつどい～講演会～

9月26日（土）14：00～16：00 百年記念会館大会議室 参加者48名

本学部卒業生の加藤秀弘氏（東京海洋大学教授）による講演会を、午後2時から百年記念会館大会議室において行いました。

講演会に先立ち、安井 肇研究院長から昨年竣工したおしよ丸の紹介や教育研究活動の近況報告の後、横山清北水同窓会会長（北海道大学連合同

窓会副会長）から、学生当時の思い出を交えながら挨拶がありました。続いて、講演会では、加藤氏から「鯨類が目指す二つの道」と題し、大きく2つの分類に分かれるクジラの進化や生態の違いなど、興味深い内容のお話をいただきました。また、捕鯨に関する世界情勢についても、国際会議の動向を

踏まえ、まだまだ先の見えない捕鯨問題についてお話をいただきました。会場には、同窓生、教職員、学生あわせて50名ほどが出席し、講演終了後は、出席した学生が講師を囲み懇談するなど、和やかな雰囲気の中盛況のうちに閉会となりました。



横山北水同窓会会長の挨拶



加藤氏による講演



講演会場の様子

環境科学院・地球環境科学研究院

松野環境科学賞授賞式，修了生講演会，コース・研究室紹介，パネル展示，懇親会

9月25日（金）14：00～19：30 授賞式，講演会，展示：環境科学院 懇親会：大学生協北部食堂 参加者69名

環境科学院では，修了生の経験や実社会の状況を在學生に届けて活かしてもらえるよう，在學生に多く集まってもらえる金曜日にホームカミングデーイベントを開催しました。

今年はずまず始めに，今年度創設された松野環境科学賞の授賞式を執り行い，環境科学院の各専攻より選ばれた4名の受賞者が，拍手の中，賞を受け取りました。

続いて，修了生による講演会を開催しました。今回は国家公務員，北海道職員，弁理士，高等専門学校教員，大学研究員，研究所教員として社会で活躍されている修了生6名から講演いただき，大学院時代の研究内容をはじめ，就職活動，現在の仕事内容や，その職業に就くまでの経緯，環境科学院での経験が現在の仕事にどのように活かされているかなど，とても興味深い

お話を共有いただきました。

講演会後は，場所を移して懇親会を行いました。卒業生や学生，教員，今回の講演者，受賞者が集い，会食・懇談を楽しんでいました。講演者に個人的に質問をしたり，初対面同士で会話を楽しんだり，短い時間ではありましたが，終始和やかな雰囲気の中で交流することができました。



松野環境科学賞授賞式記念撮影



修了生講演会の様子



講演会聴講者の様子

理学院・理学研究院・理学部，生命科学院・先端生命科学研究院／理学部同窓会

理学部ホームカミングデー

9月26日（土）13：30～18：00 理学部2号館玄関ロビー他 参加者89名

4回目となる理学部ホームカミングデーは，今年も理学部同窓会の総会をこの日にあわせて開催しました。

最初に，2号館玄関ロビーを会場に，理学部の現況報告を行いました。石森浩一郎理学研究院長・理学部長，高橋孝行同窓会理事長の歓迎の挨拶の後，石森研究院長が近年の改組により複雑化した研究院・学院組織の説明や，理学部をめぐる最近のトピックスに関して報告しました。

次いで，同窓会からの奨学金により海外の国際会議等において研究発表を行った大学院生3名が，旅行中のエピソードや初めての海外発表で緊張から起こしてしまった失敗談などを交えた発表を行い，同窓生の方々は笑顔で聞き入っていました。

その後，理学部同窓会通常総会を2号館講義室で開催し，議案に対する審



石森理学研究院長の近況報告



同窓会奨学生の発表



同窓会総会の様子



交流会で挨拶する山口総長

議を行いました。例年どおり多くの同窓生に出席いただき、同窓会の運営に関して熱心な質問や意見交換がなされました。

総会終了後、教職員と同窓生はファカルティハウス「エンレイソウ」に移動し、理学部&同窓会交流会に参加しました。石森研究院長の挨拶の後、数

学科出身の山口佳三総長から、本学の教育研究活動の様々な取組の紹介とともに、本学への支援のお願いの後、山口総長の発声による乾杯で交流会が幕開けしました。

立食形式による1時間半ほどの会でしたが、和やかな雰囲気が進み、歓談の合間には、現職教員が各学科の近況

を報告し、また同窓生の出席者からは理学部を応援するお言葉をいただきました。

高橋同窓会理事長の閉会挨拶・乾杯の後、同窓生は出身学科の教員の案内で理学部建物に戻り、研究室見学、現役学生・教員との懇談会に参加して交流を深めていました。

農学院・農学研究院・農学部

市民公開・農学特別講演会

9月25日（金）13：30～15：40 農学部大講堂 参加者132名

農学院・農学研究院・農学部は、札幌農林学会・札幌農学同窓会とともに、同窓生、市民、教職員、学生を対象として、9月25日（金）に農学部大講堂において、市民公開農学特別講演会を開催しました。市民公開農学特別講演会は、明治31年に発足した札幌農林学会が開催してきた学術講演会を継承・発展させたもので、100年以上の歴史があり、平成9年から市民公開農学特別講演会と名称を改め、広く一般市民の方々に公開しています。

横田 篤研究院長の挨拶の後、農学研究院の岩間和人特任教授より「おい

もわかきもおいも」と題して、一貫して研究の対象とされてきた「ばれいしょ」についての講演がありました。ばれいしょが南米からいかに日本にもたらされたのか、夏が涼しいために北海道でとれるばれいしょがおいしいことなど、ばれいしょを巡る興味深い話がありました。また、現在取り組んでいる乾燥に強い品種の育成の研究紹介もありました。

続いて、農学研究院の丸谷知己特任教授より「土砂災害から命を守る－山はいかに崩れ、土砂はいかに運ばれるのか－」と題して講演がありました。

九州で20年もの間継続して溪流の計測を続けて土砂移動のメカニズムを解明したことや、ニュージーランドでの土砂運搬の解析など、「地球と格闘」してきた研究の紹介がありました。土砂の大きな動きのなかで災害を完全に防ぐことは不可能で、減災を目指し、最後は避難する備えの重要性を指摘しました。

同窓生だけではなく一般市民の方にも多くお越しいただき、大講堂が満員になる132人に参加いただきました。両先生の大変興味深く、刺激的なお話



岩間特任教授



丸谷特任教授



会場を埋め尽くす数多くの参加者

国際広報メディア・観光学院, メディア・コミュニケーション研究院

HCD@IMCTS修了生meet在學生

学生制作学院PRビデオ放映, 修了生講演会(1部・2部), 在校生パネル討論会: ミニシンポジウム「在校生と考える夕張の過去・現在・未来」, 国際広報メディア・観光学院同窓会総会・懇親会

9月26日(土) 13:00~20:00 メディア・コミュニケーション研究院メディア棟 参加者80名

国際広報メディア・観光学院のホームカミングデーは、今年も本学院の学生が制作した「学院PRビデオ」の放映で開幕しました。

修了生講演会第1部では、名塩征史氏(静岡大学グローバル企画推進室特任助教)より、「日常のコミュニケーションを支える〈知〉の探求: 日本語教育・相互行為分析を通して」と題して、また、第2部では赤穂雄磨氏(観光創造ラボ代表社員)より「観光

業における起業の実務: 知っておくべきお得な!? 情報」と題して講演いただきました。

在校生パネル討論会「在校生と考える夕張の過去・現在・未来」では、国際広報メディア専攻及び観光創造専攻の両専攻の博士後期課程学生をメインとして、財政破綻からの再生を目指す夕張の実態や今後の活動をテーマにディスカッションを行い、本学院の伝統であるプロジェクト型演習を再現しまし

た。聴衆からも活発な質疑応答が行われ、見所のある催しとなりました。

同窓会総会では、札幌、東京、北京における活発な活動について報告が行われ、今後、同窓会の組織率をさらに高めていくことを課題に挙げました。続く懇親会は修了生、教員、在學生や本学院のOB教員で賑わい、盛会のうちに終了しました。

工学院・工学研究院・工学部

北海道大学工学系イノベーションフォーラム2015, 北工会サークル展示, 保護者・OB・OGとの全体懇親会

北海道大学工学系イノベーションフォーラム2015

9月25日(金) 13:30~16:15 情報科学研究科A21教室, 2階ロビー 参加者88名

本フォーラムは、工学研究院における地域連携や社会連携に向けた研究を支援することを目的とした工学系連携推進部と、工学部情報エレクトロニクス学科及び情報科学研究科の同窓会である北工会の共催事業として実施しました。

開会の挨拶の後、講演の部としてイノベーションに関連した講演を情報科学研究科A21教室で2題実施しました。

最初に、北海道ガス株式会社スマートエネルギー推進部の栗田哲也部長から「エネルギーの高度利用技術とスマートエネルギーネットワーク社会〜期待が高まる工学および情報科学の役割〜」について発表が行われました。

続いて、情報科学研究科の村山明宏教授から「電子と光の情報を結ぶ: 量子ドットが拓く未来の光電情報変換」について発表が行われました。

引き続き、ポスター発表の部として、2階ロビーで工学研究院及び情報科学研究科の最近の代表的研究成果について、36題のポスター発表を実施しました。このポスター発表のうち20課題については、工学系連携推進部ホームページで工学系研究者シーズ集Vol.13として公開していますので、ぜひご覧ください。

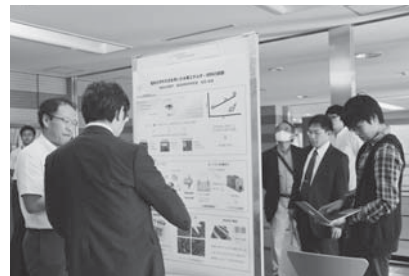
<http://labs.eng.hokudai.ac.jp/office/elo/jp/seeds/>



北海道ガス株式会社 栗田氏



熱心に講演を聞く参加者



パネル展示

北工会サークル展示

9月25日(金) 16:00~20:00, 26日(土) 9:00~17:00 工学部正面玄関ホール

工学部正面玄関において、北工会(工学部の教職員・学生等の親睦団体)の公認サークルによる作品(書道、写真、生け花)を展示しました。

平日からの展示ということもあり、ホームカミングデー来場者以外に、在学生や外部からの来訪者の方々も、足を止めて作品に見入っていたのが印象的でした。



サークル展示の様子

「世界に幸せをもたらす工学」

9月26日(土) 13:30~16:00 工学研究院 参加者233名

教育・キャリア企画室では、工学部ホームカミングデー「世界に幸せをもたらす工学」を全体テーマに、コースによる4つのプログラムの他、今年度初めて「保護者との懇談会」を実施しました。

保護者との懇談会では、最初に工学部長及び教育・キャリア企画室長により、様々な面から工学の教育・研究の現状について講演が行われ、次に各コースに分かれ、担当教員によるコースの説明や個別面談等が行われました。

参加した同窓生はお互い学生時代を懐かしんだり、また在学生のみならず保護者の方々とも年代を超えて交流を深めたりしていました。

プログラム

社会基盤学コース・国土政策学コース 「土木実験棟への思いと今後の土木教育」

- ①現土木実験棟・新棟建築場所ツアー
- ②OB、学生、教員による土木教育に関する意見交換

建築都市コース

- ①学生による研究室紹介(優秀発表の表彰あり)
- ②OB・OGと学生との座談会

衛生環境工学コース 「世界で活躍する環境工学」

- ①講演会
- ②OBからの話題提供による座談会
- ③パネル討論、学生との懇談会

資源循環システムコース 「未来の資源教育を考える」

- ①講演会
- ②教員・学生・OB/OG・講演者によるディスカッション

保護者・OB・OGとの全体懇親会

9月26日(土) 16:00~17:00 工学部食堂 参加者131名

工学部食堂において、工学部のOB・OGである同窓生や保護者の方々を多数お迎えし、全体懇親会を開催しました。

保護者の方が参加される懇親会は、工学部では初めての試みでしたが、70名近い保護者の方々を含む、総勢130名

以上での大規模なものとなりました。

懇親会の冒頭では、名和豊春工学部長からの挨拶があり、引き続き、馬場直志工学部同窓会理事長からご挨拶をいただいた後、石山 喬北海道大学連合同窓会会長による乾杯の音頭で歓談に移りました。

参加された保護者の方々は、現役教員や他の保護者の方と熱心にお話をされており、また、同窓生の方々も級友との再会を大いに楽しんでおられました。

最後は小林幸徳工学研究院副院長からの閉会の挨拶により、盛会のうちに終了しました。



名和工学部長挨拶



石山北海道大学連合同窓会会長による乾杯の音頭



歓談風景

薬学部創立60周年記念講演会

9月26日(土) 15:50~16:40 薬学部臨床薬学講義室 参加者130名

薬学研究院・薬学部は1954年に医学部薬学科として設置され、昨年で創立60周年を迎えました。昨年は建物の改修・改築工事の途中であったため、工事が終了した今年、ホームカミングデーにあわせて、「北海道大学薬学部創立60周年及び総合研究棟建築・管理研究棟改修完成記念行事」を執り行いました。

記念式典の後、ホームカミングデーの企画として開催した「創立60周年記念講演会」では、本学部17期(1974年卒)の堅田利明先生(東京大学大学院薬学系研究科教授)に、「北大薬・卒業研究で見出したGタンパク質に魅せられて」と題し、本薬学部での卒業研究をきっかけとして発展されてきたご自身のこれまでの研究の流れを、当時

の思い出話を交えてお話しいただきました。引き続き行われた、15期(1972年卒)松田 彰先生(本学薬学研究院特任教授、前薬学研究院長)の「大学の大量化から淘汰の時代を迎えて」と題した講演では、少子高齢化が進み、18才人口が減っていく我が国において、今後大学が直面すると予想される問題及びそれに次世代の大学関係者がどう対処していくべきか、などについてお話がありました。

講演会終了後、同窓生対象に改修・改築工事が終了した建物の内覧を行い、新装した研究室や実験室を見学していただきました。同窓生は在籍していた頃の様子との違いに驚かれたり、懐かしんでいたいただいた様子で、予定時間を超過し好評のうち終了しました。



発表する堅田教授



発表する松田特任教授

北方生物圏フィールド科学センター

「生物生産研究農場」ミニツアー、植物園の見学

9月26日(土) ミニツアー/14:30~15:00, 15:30~16:00 植物園/9:00~16:00 生物生産研究農場, 植物園 参加者30名

北方生物圏フィールド科学センターでは、耕地圏ステーション生物生産研究農場のミニツアーと植物園見学を実施しました。

「生物生産研究農場」ミニツアーにおいては、9名の参加者があり、放牧地、牛舎及びスキ試験圃場で山田敏彦農場長が説明を行いました。参加者からは、身近に作物や家畜に触れられたと、好評でした。

また、植物園においては、幅広い年代にわたる卒業生等21名が来園し、温室・博物館・宮部金吾記念館など園内を懐かしそうに見学していました。



「生物生産研究農場」ミニツアー



「植物園の見学」の来園者

学務部学務企画課（北海道地区国立大学連携教育機構）

双方向遠隔授業体験会，道内教養教育連携実施におけるICT機器を活用した最先端の高等教育について

9月26日（土）13：00～16：30 高等教育推進機構S2講義室，S12講義室 参加者10名

現在，本学をはじめ道内の国立大学間で実施している教養教育連携実施事業について紹介するため，S2講義室及びS12講義室を双方向遠隔授業システムにより接続して，双方向遠隔授業の体験会を開催しました。

最初に，本事業のPRビデオを上映し，本事業の概要や双方向遠隔授業システムの機器構成等について紹介した後，平成26年度後期から実施された遠隔授業の中から，大講義室において行われた授業，小教室において行われたアクティブラーニング型授業の一例を

紹介しました。

また，本システムにより導入された電子黒板等の機器操作体験を行い，遠隔教室との相互の書き込みができることを体験していただきました。

続いて，模擬授業として，最近の本学に関する問題を出題し，クリッカーと呼ばれる応答装置により来場者に回答していただきました。

その後，来場者と双方向遠隔授業システムや遠隔授業の実施規模，本システムの今後の可能性等について意見交換を行いました。



双方向遠隔授業体験会の様子

北大キャンパスビジットプロジェクト（学務部入試課担当）

キャンパスツアー — 現役北大生とめぐるキャンパス今昔 —

9月26日（土）13：00～15：00 札幌キャンパス構内 参加者10名

全体行事の会場となったクラーク会館を出発し，参加者の出身学部に応じてコースを分けて札幌キャンパス構内を順次巡り，高等教育推進機構を最終到達地点としたツアーを実施し，10名の方に参加していただきました。

ツアー中は，スタッフである現役学生がコース中にある各学部の現在の様子などを紹介し，参加者から本学で学ばれていた当時の話を伺うという形で進行しました。参加者からは本学で学

ばれていた当時の思い出して懐かしむ声や挙がる一方で，構内の新しい建物への質問などがあり，スタッフである現役学生がそれに答えながら参加者の在学当時の様子について詳しく聞く場面があるなど，現役学生と同窓生が交流を深める貴重な機会となりました。

ツアー終了後には，参加者からは「建物，歴史等について初めて知ることがあり，大変勉強になった」「昔とは変わったところがたくさんあった」

等の感想が寄せられました。

北大キャンパスビジットプロジェクトでは，年に数回，一般市民向けのキャンパスツアーを行っており，今秋にもキャンパスツアーを実施する予定です。今回，ご参加いただいた方々から伺うことができた過去の様子なども参考にし，これからのキャンパスツアーをより良いものにしていきたいと思っております。



キャンパス内を歩く現役学生と同窓生



現役学生スタッフによるガイドを真剣に聞き入る同窓生



キャンパスの今昔を語り合う様子

産学・地域協働推進機構

北キャンパスと産学協働活動の紹介

9月26日（土）11：30～13：30 クラーク会館3階展示場 参加者30名

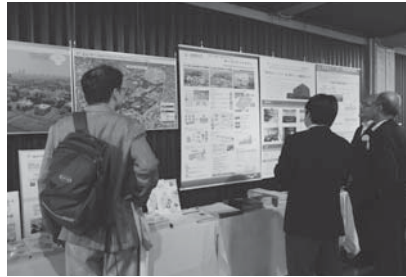
9月26日（土）に北海道大学ホームカミングデー2015に出展しました。この出展は、ランチパーティー（主催：北海道大学、北海道大学連合同窓会、北海道大学ほっかいどう同窓会）と同時開催とし、食事を楽しみながら大学の産学協働の取り組みや、最近の社会貢献等の動向について知っていただくというものです。

道産食材を片手に、多くのOB、OGの方にお越しいただき、熱心にパネルやパンフレットを見ていただきました。なお、本出展には北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会にも参加い

ただき、北キャンパスの歴史の変遷と、最新の航空写真を使ったパネルによる説明を行っていただきました。

OB、OGの皆様には、本学や北海道

に何らかの貢献をしたという意思をお持ちの方が多くいらっしゃいます。今回もその気持ちがひしひしと伝わった一日となりました。



説明の様子



展示パネル

ほっかいどう同窓会

ホームカミングデー・ランチパーティー

9月26日（土）11：30～13：30 クラーク会館3階展示場 参加者164名

ほっかいどう同窓会では北海道大学・同連合同窓会との3者共催で、全学行事の歓迎式典・記念講演会に引き続いてランチパーティーを行いました。

近藤龍夫ほっかいどう同窓会会長の歓迎挨拶に引き続いて、山口佳三北海道大学総長と石山 喬連合同窓会会長の挨拶をいただいた後、懇親に入りま

した。

北海道大学の役員、全国から集まった同窓生、歓迎式典のステージに彩りを添えた学生等により会場は溢れんばかりの大盛況で、北海道産のチーズ・サーモン・ハムなどをふんだんに使った料理に舌鼓を打ちながら、歓談や名刺交換などで親交を深めました。

また、会場入口での産学・地域協働推進機構主催のポスターセッションもこのパーティーと両々相まって好評でした。

閉会は、齋藤和雄連合同窓会・ほっかいどう同窓会副会長の音頭でお開きとなりました。



近藤会長の歓迎挨拶



司会の坂本 容副会長



パーティー風景

文化講演と寮歌の集い

9月26日(土) 14:30~18:00 クラーク会館大集会室 参加者100名

恵迪寮同窓会独自の行事として、今年も「文化講演と寮歌の集い」をクラーク会館大集会室で開催し、OBや現寮生ら延べ100名近い参加がありました。

このうち文化講演は、北大における有島武郎研究の第一人者である神谷忠孝名誉教授(S33年入寮)により「有島武郎と北大・恵迪寮」と題して行われました。神谷名誉教授は、恵迪寮舎監時代の寮日誌や資料等から当時の寮生がよく訓練され、談論風発の気概にみまぎっていたことを紹介しました。さらに社会主義、自由思想に傾注していく有島が、農科大学を愛しながらも、

妻・安子の死去をきっかけに退職し、作家として独立するとともに、理想を貫く有島が父の遺した牧場の解放に向けて動き出す様を手紙などの資料をもとに解説しました。最後に、婦人公論の女性編集者と軽井沢の別荘で心中するまでの、時代に苦悩する“人間有島”の理想主義者としての生き方を紹介しました。

第2部の「寮歌の集い」には、傘寿を大幅に超えた大先輩から、10代の現寮生まで、70歳以上の年の差を超えて幅広い仲間が参加しました。恒例の「都ぞ弥生」斉唱の後、新しい趣向として氏平増之氏(S38入寮)や千川浩

治氏(S40同)の指導でドイツ語版、ロシア語版、アイヌ語版の「都ぞ弥生」を熱唱しました。また、東京から駆けつけた須賀正太郎氏(S28同)が2年がかりで語訳した中国語版を同期の仲間と合唱し、さらに、現在同窓会で進行中の3種の音源で作る「都ぞ弥生」CD制作に協力してくれている北海道大学交響楽団の弦楽四重奏のメンバーも、バイオリンで「都ぞ弥生」のほか名寮歌を演奏してくれました。

各年代順で名寮歌を蛮歌放声した後、「都ぞ弥生」を5番まで歌い、最後に来年の再会を期して「別離の歌」で締めくくりました。



有島の心情を解析する神谷名誉教授



「都ぞ弥生」を熱唱する同窓生



寮歌の集いに花を添える交響楽団員による演奏



肩を組み合わせ「都ぞ弥生」を高唱

元総長 中村睦男名誉教授が「平成27年度北海道功労賞」を受賞

本学元総長である中村睦男名誉教授が、アイヌ文化の振興や伝統などに関する知識の普及及び啓発を図るための施策を積極的に推進し、アイヌ施策に多大な貢献をしていることに対して、「平成27年度北海道功労賞」を受賞さ

れました。

この賞は、昭和44年に北海道開発功労賞として創設され、北海道の経済、社会、文化等の発展に貢献し、その功労が特に顕著な方に贈られるもので、知事表彰として最高位にあたるものです。

10月14日（水）に行われた贈呈式では、高橋はるみ知事から表彰状が手渡されました。

（総務企画部広報課）



表彰状の授与



受賞後の挨拶

公益財団法人北海道大学クラーク記念財団の解散及び事業継承のお知らせ

この度、公益財団法人北海道大学クラーク記念財団から、平成28年3月31日をもって解散することを決議したとのご報告がありましたので、謹んでお知らせします。

同財団の歴史を振り返りますと、昭和27年7月にクラーク博士及び宮部金吾博士の崇高な教育理念を復興し、有為な人材育成を目的とする奨学事業を行う「財団法人クラーク及び宮部奨学会」が設立されました。その後、本学創基80周年を記念してクラーク会館が建設されたことに伴い、昭和35年5月

に「財団法人クラーク及び宮部奨学会」を解消し、その事業を継承するとともに、クラーク会館の経営にも協力する「財団法人クラーク記念会」が設置されました。

本学では、21世紀を迎え「大学後援法人」の設立をめざすことになり、平成13年5月に「財団法人クラーク記念会」は「財団法人北海道大学クラーク記念財団」に転換され、同24年4月には新公益法人に移行し、現在に至っています。

同財団が解散を決議したことに伴い

まして、これまで同財団が実施されてきました、学生支援をはじめ、本学の教育研究の充実に資する種々の事業の基本は、「北大フロンティア基金」が引き継ぐこととして準備を進めており、解散後の残余財産は、本学に贈与されることになっています。

これまで北海道大学クラーク記念財団にお寄せいただきましたご支援につきましては、引き続きフロンティア基金に賜りますようお願い申し上げます。

（総務企画部広報課）

北海道大学交流デー（韓国・江原大学校）を開催



開会式終了後の記念撮影

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、9月1日（火）に江原大学校において、北海道大学交流デーを開催しました。

江原大学校は、韓国北東部の春川市にある国立の総合大学です。本学とは平成10年に本学農学部と江原大学校の農業生命科学大学、林産大学及び畜産大学との間で部局間交流協定を締結し、平成14年には大学間交流協定を締結しています。

開会式には、同大学動物生命科学大学の金 居猷学長をはじめ、教職員、

学生等約130人の出席があり、本学からは、寺尾宏明副学長をはじめ、16人の教職員及び学生が出席しました。

開会式では、江原大学校の金学長の挨拶の後、本学の寺尾副学長の挨拶があり、その後両大学の紹介が行われました。

開会式の後には、3つの分科会に分かれて、研究交流セミナーを行いました。

第1分科会は、本学農学研究院生物機能化学分野、畜産科学分野と江原大学校動物生命科学大学、第2分科会は、本学農学研究院森林科学分野と江

原大学校森林環境科学大学、第3分科会は、本学獣医学研究科と江原大学校動物生命科学大学との間で行われ、本学の紹介や研究交流が行われました。これらの分科会には、本学の参加者を含め、全体で約210人が参加しました。

今後もソウルオフィスでは、韓国における教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交流を強化していきます。

（国際本部国際連携課）



開会式で挨拶をする寺尾副学長



研究交流セミナーの様子

平成27年度北海道大学インターンシップを実施

本学学生を対象としたインターンシップを、9月7日（月）～11日（金）の5日間（附属図書館は9月7日（月）～15日（火）の7日間、学務部キャリアセンターは9月7日（月）～18日（金）の10日間）の日程で実施しました。

本インターンシップは、特に近年、社会的にインターンシップへの参加希望者が増加していること、本学卒業生に係る進路状況においても就職先として本学が高い順位を示していること等を踏まえ、学生に就業体験の機会を与

えることにより、職業意識の育成・向上に寄与し、併せて本学に対する理解を深めることを目的として実施しています。

今年度は9部局で、11名の学生を受け入れました。（下表参照）

初日は実習生全員を対象として、インターンシップ開講式及び全体オリエンテーションを実施し、各実施部局担当者から「組織運営」「財務」「学務」「施設」「国際」「図書」の6つのテーマに基づき、本学の概要が説明されました。

実習生の中には、初めての就業体験に緊張や戸惑いを見せる学生もいましたが、担当職員から業務の説明を受けると真剣に聞き入り、積極的に業務に取り組んでいました。実習生からの実習報告では、「大学職員のイメージがより明確になった」「経験を積むことで様々な事例に対応できるようになることがわかった」「確認等を怠らずに作業を進めることが大切だと思った」などの感想が寄せられました。

（総務企画部人事課）



全体オリエンテーションの様子



インターンシップ実習生による学内巡視の様子

実施部局	実習開始日～終了日 【実働日数】	実習生	
		所属	学年
総務企画部	9月7日（月）～11日（金）【5日】	法学部	3年
財務部	9月7日（月）～11日（金）【5日】	工学部	3年
学務部	学務企画課	9月7日（月）～11日（金）【5日】	教育学部 3年
	教育推進課	9月7日（月）～11日（金）【5日】	文学部 3年
	学生支援課	9月7日（月）～11日（金）【5日】	教育学部 3年
	キャリアセンター	9月7日（月）～18日（金）【10日】 （土日を除く）	経済学部
法学部			3年
施設部	9月7日（月）～11日（金）【5日】	工学部	3年
国際本部	9月7日（月）～11日（金）【5日】	環境科学院	修士1年
		経済学研究科	修士1年
附属図書館	9月7日（月）～15日（火）【7日】 （土日を除く）	経済学部	3年

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	17,532件	3,041,406,735円
基金累計額（9月30日現在）	教職員の寄附率	35.7%（1,414件/3,962人）

9月のご寄附状況

法人等7社、個人135名の方々から7,046,098円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

SAGE Publications Asia Pacific Pte Ltd, 大地みらい信用金庫, 株式会社ツルハ, 日本ケミコン株式会社, 引地邦男先生の叙勲を祝う会, 北大全学教育科目教科書『地球惑星科学入門』著者一同, 理学部地質学鉱物学科1962年移行・1965年卒業有志一同

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	綾部 玲子	荒澤 一之	石 好八郎	石井 信行	石野 悟司	伊藤 利文
伊藤 義之	入澤 秀次	岩崎 信治	大友 毅	大西真貴子	小川美香子	尾郷 賢	小内 透
小原 大和	帰山 雅秀	金川 眞行	兼俊 壮明	亀澤 一昭	亀山 明	川岸 信夫	川端 楨子
河本 充司	岸部 繁俊	北出 弘	北村 愛	木原 章雄	木村 政明	工藤 茂子	小板 順一
光山 慎一	齋藤 彰	斉藤 久	佐々木秀之	佐藤 紘一	佐藤 朋子	三升畑元基	嶋田 誠
清水 智之	志水 陽一	城田 昌良	杉村法萬天	須田 孝徳	須藤 進	関口 新造	瀬田石榴枝子
瀬名波栄潤	高山 幸一	竹内 信彦	武田 宏司	田中 充哉	土家 琢磨	寺澤 睦	富田 初
豊田 威信	中畠 孝幸	長屋 良行	成島 辰巳	南園 真純	仁木加寿子	西山 恒夫	早川 和雄
原 猛機	原島 秀吉	布野 栄一	米田 宏	三上 雄貴	三谷 千花	南 雅文	宮坂 榮二
村上 公一	柳谷 憲治	山内 隆嗣	吉田 広志	和田 完	渡邊 瑞貴		

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（個人）

荒澤 一之, 北出 弘, 嶋田 誠

（法人等）

大地みらい信用金庫, 株式会社ツルハ, 日本ケミコン株式会社, 引地邦男先生の叙勲を祝う会, 北大全学教育科目教科書『地球惑星科学入門』著者一同, 理学部地質学鉱物学科1962年移行・1965年卒業有志一同

感謝状の贈呈



大地みらい信用金庫 様 (平成27年7月7日)



寺田医院 様 (平成27年9月26日)



矢ヶ崎啓一郎 様 (平成27年10月9日)



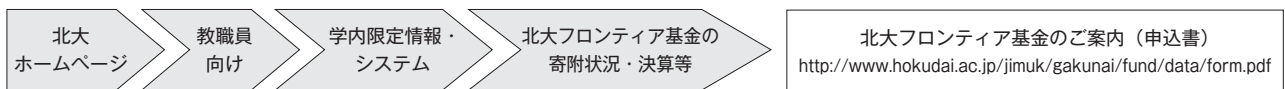
中川 洋 様 (平成27年10月10日)

北大全学教育科目教科書『地球惑星科学入門』著者一同 様
(平成27年10月16日)

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ (<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>) のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

平成27年度北海道大学フロンティア奨学金受給者の決定

この度、平成27年度北海道大学フロンティア奨学金の受給者が決定しました。

北海道大学フロンティア奨学金は、本学が掲げる「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」及び「実学の重視」の4つの基本理念のもとに、将来、社会の各分野においてリーダーとして活躍できる人材の育成

を目的として創設された、返還義務のない給付型の奨学金で、企業、個人、同窓生及び教職員の皆様方からご支援をいただいております「フロンティア基金」により運営されています。

なお、給付対象が新渡戸カレッジ奨学金と重複しないよう、今年度は学部4年次以上及び大学院生を給付対象とし、各学部・研究科等から推薦のあつ

た35名の学生のうち、選考委員による厳正な審査の結果、学部生5名、大学院生15名を受給者として決定しました。受給者には1年間にわたり、月額5万円が給付されます。

(学務部学生支援課)

平成27年度北海道大学鈴木章科学奨励賞—自然科学実験—被表彰者の決定

この度、平成27年度北海道大学鈴木章科学奨励賞—自然科学実験—の第1学期被表彰者3名を決定しました。

本表彰制度は、鈴木 章名誉教授のノーベル化学賞受賞を記念して平成23年に創設され、今回を含め30名の学生に授与されています。賞の内容は、第1年次学生が履修する全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、かつ本学の目指す全人

教育の理念にふさわしい学生を表彰するものです。被表彰者は各学期3名程度、毎年6名程度で、高等教育推進機構長から賞状の授与及び記念品が贈呈されます。

なお、授与式は第2学期の被表彰者と共に、平成28年3月に行います。

(学務部学生支援課)

平成27年度第1学期被表彰者

17組	越後谷	駿
23組	伊 東	祐 紀
26組	中 島	理 沙

平成27年度小島三司奨学金受給者の決定

この度、平成27年度小島三司奨学金の受給者が決定しました。

本奨学金は、本学の元職員である故小島三司氏の遺志に基づき、アルツハイマー病を研究する大学院生に、奨学金を給付することにより、研究活動の充実を図り、医学の進歩に寄与することを目的として創設された、返還義務のない給付型の奨学金です。

今年度は、3名(医学研究科1名、生命科学院2名)の推薦があり、厳正な審査を行った結果、推薦のあった3名を本奨学金の受給者として決定しました。受給者には、1年間にわたり月額5万円が給付されます。

(学務部学生支援課)

平成27年度受給者

医学研究科	岸 本	亜由子
生命科学院	木 村	彩 乃
	矢 原	真 郎

平成27年度第1回「北海道大学TF研修会」を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、9月17日（木）に本機構を会場として、TF（ティーチング・フェロー）研修会を開催しました。これは、平成27年度からTF制度が本学において導入されたことに伴い、採用候補者である大学院生を対象として平成27年2月から実施しています。

TF制度は、大学院博士課程の大学院生を対象に、大学院教育の一環として、教員と分担しながら学士課程の授業を担う機会を与えることで、教育能力を高め、将来指導的役割を果たす人材を養成することを目的とした制度です。学士課程教育をより一層充実させることも目的としています。また、TFに採用される学生には、本研修会などのTF研修の修了を義務づけ、事前に理解を深めてもらうこととしています。

午前の部では、新田孝彦センター長の挨拶に続き、「TFとしての心構えと教育倫理綱領の理解」「シラバスの構成と意味」「評価の機能と種類」「クラス・マネジメント」といった、TFに関する具体的な内容の講演が行われました。

午後の部では、参加者は5～6名ずつのグループに分かれ、アイスブレイキングを行った後、「教育者または学習者としてのTFに求められるものは何か？」をテーマにグループ討議を行

いました。最後にグループごとにその成果を発表し、全体で討論しました。

今回の研修会では、修士課程2年次及び博士課程の学生56名が修了しました。どの参加者も積極的に研修に取り組んでおり、TFに高い意欲を持って臨んでいる様子が感じられました。

平成27年度第2回北海道大学TF研修会は、平成28年2月に開催する予定です。

（高等教育推進機構）



午前の講演の様子



午後の実習の様子

「アクティブ・ラーニング導入ワークショップ」を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、9月1日（火）にアクティブ・ラーニング導入ワークショップを開催しました。本ワークショップは、アクティブ・ラーニングが大学の授業に推奨されていることを受け、本センターが企画・実施したものです。教員44名（学内22名、学外22名）の参加があり、自らの授業に効果的なアクティブ・ラーニングの導入を目指しました。

開催にあたり、新田孝彦センター長から挨拶があった後、早速アクティブ・ラーニングについて講演・ワーク

ショップのプログラムに入りました。

今回のプログラムは、アクティブ・ラーニングについての講演とグループ討論からなり、本機構の三上直之准教授による「少人数授業におけるアクティブ・ラーニングの手法」、本センターの山本堅一特任准教授による「大人数におけるアクティブ・ラーニングの手法」と題した講演の後、本機構の飯田直弘准教授による「自らの授業にアクティブ・ラーニングを取り入れる」と題したワークショップが行われました。

事後アンケートでは、「学生に対する具体的な対応策等を聞いて具体的なイメージを持つことができた」「グループ討論の際に他の先生の講義の工夫を聞いて参考になった」との意見があり、全てのプログラムにおいて8割以上の方に満足いただくことができました。

本センターでは、今年度末にもアクティブ・ラーニングに関するワークショップを開催する予定です。興味のある方は積極的にご参加ください。

（高等教育推進機構）



講演の様子



グループ討論の様子



演習の様子

「第27回北海道大学教育ワークショップ」を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、9月8日（火）・9日（水）に北海道の大学等に着任して5年未満の新任教員を対象とした新任教員研修（北海道大学教育ワークショップ）を高等教育推進機構S講義棟5講義室で開催しました。

本ワークショップは、本学が平成10年度から毎年実施してきたもので、平成19年度からは、6月と11月の年2回、宿泊を含めた「合宿型」として2日間実施しており、今回初めて宿泊を含めない「通い型」として、9月に本学キャンパス内で2日間実施しました。

6月に続き、本年4月1日付けで高等教育推進機構に設置された高等教育研修センターが企画・主催し、「学生主体型授業の設計」をテーマに開催しました。学内の教員27名、学外の教員8名の参加があり、仮想の授業科目を提案し、そのシラバス作成を通じて、教育の基礎を理解し、授業のデザイン方法、新しい教育手法等を身に付けることを目指しました。

開催にあたり、細川敏幸副センター長から挨拶があった後、オリエンテーションを行い、5グループに分かれて「自分の教育観を考える」と題した研修が行われ、その後、シラバスを作成

するメインプログラムに入りました。

このプログラムは、課題の「レクチャー」「グループ討論」及び「成果の発表、全体討論」を1セットに3つの課題を3セット行い、参加者はシラバスを具体的に作り上げていく過程を通して、授業の目的・内容・評価方法の3つの基本的要素を体験的に学びました。また、各セットの間には自身のシラバスの校正と講師による添削、授業での悩みを解決する方法を考えるワークショップが行われました。

最後に、細川副センター長から受講者へ教育ワークショップ修了証書が手渡され、全日程が終了しました。

事後アンケートでは「異分野の先生方と交流できて良かった」「シラバスの作成プロセスが理解できて良かった」「他の先生の授業に対する考え方が聞けて参考になった」等の意見が見られ、大変有意義なワークショップとなりました。

高等教育研修センターでは、今年度は、本ワークショップの実施回数を年3回に拡大する等、既存のFDに加えて新しい試みも計画していますので、積極的にご参加願います。

（高等教育推進機構）



グループ討論の様子



課題成果発表の様子



修了証書授与の様子

生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設で慰霊祭を挙げる

創成研究機構では、9月29日（火）午後2時から、生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設において、創薬・機能性食素材の研究開発・事業化の礎として実験に供せられたマウス、ラット、ウサギの慰霊祭を執り行いました。

慰霊祭には同施設で研究を行っている教職員、大学院生等約60人が参列しました。

はじめに幸田敏明生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター長から、動物実験は、尊い命を犠牲にし

ていることを常に念頭に置いて実施していただきたい旨の挨拶があり、その後、参列者全員による黙祷並びに献花が行われ、終わりに小布施力史先端生命科学研究院教授から、医学・生命科学の研究のために捧げられた動物に対する慰霊の言葉が述べられました。

参列者全員が生命の尊厳、倫理観について考える機会となり、厳粛のうちに慰霊祭を終了しました。

（研究推進部研究支援課）



挨拶を述べる幸田センター長



参列者による献花

アイヌ民族の文化に触れる「ホリデーインひだか」を開催

国際本部と国立日高青少年自然の家の共催で、7月11日（土）・12日（日）の2日間、「ホリデーインひだか」を日高町で開催し、11ヶ国からの29名の留学生と19名の日本人学生が参加しました。

今年で24回目となるこの事業は、留学生に対してはアイヌ民族の生活文化体験を通して、日本人学生との「交流」について考えるとともに、文化の多様性に気づくこと、日本人学生に対しては事業の企画、運営に実際に関わることで、コミュニケーションスキルを高めることを目的としています。

1日目は、グループに分かれて自己紹介の後ゲームを行い、すっかり打ち解けたところで平取町立二風谷アイヌ文化博物館を見学しました。日本人でも道外出身の学生が多いため、生のア

イヌ民族の文化や歴史に初めて触れる学生が大半で、参加者の興味と関心は尽きないようでした。

その後、国立日高青少年自然の家に移動し、アイヌ民族の歌唱と舞踊を体験しました。歌唱は口から口へ、声から声へと受け継がれる独特の伝承方法を知り、また参加者もその一部となってその世界を垣間見ました。舞踊では引率の先生を含む全員が、老婆、鶴、鯨となり大きな輪となって躍りました。終了後はバーベキューを行い、焼きそばやホットケ、焼肉を瞬く間に平らげる一方、先ほどの体験の話に花を咲かせていました。

2日目は全員で「朝のつどい」のラジオ体操に参加しました。留学生の中には初めてラジオ体操をする人もおり、左右を見渡しつつささやかな文化

体験をしていたようでした。朝食後はクラフトを体験しました。彫刻刀を使って独特の文様を模ったコースターや野生のイタドリを切った笛作りに挑戦しました。特にイタドリの笛は好評で、札幌に戻っても笛を手放すことはありませんでした。

昼食後には活動のまとめを行いました。グループに分かれ、事前に立てた目標で達成できた点、できなかった点をまとめ、日本語と英語で発表しあい、最後に国立日高青少年自然の家のスタッフと体験活動の講師の方々にお礼を言い、学びの場を後にしました。今回のプログラムは留学生、日本人学生が共に多くを学んだ、実りあるものとなりました。

（国際本部国際交流課）

北海道で国際色豊かなサマースクールを開講―「大学の世界展開力強化事業」2事業で―

本学とインドネシア及びタイのトップ大学による共同教育コンソーシアムが実施する「人口 (Populations) ・活動 (Activities) ・資源 (Resources) ・環境 (Environments) の負の連環を正に転換させるフロンティア人材育成プログラム」(通称「PAREプログラム」)では、8月25日(火)から9月8日(火)までの15日間、北海道で第3回PAREサマースクールを開講し、本学及び国際交流協定校の学生39名が受講しました。

流域における「持続的な土地・水・食・エネルギー資源の開発と管理」をテーマにした今回のサマースクールでは、本学教員の他、トゥールーズ第3ポール・サバティエ大学(フランス)や、バンドン工科大学(インドネシア)、タマサート大学(タイ)の教員等が講義を提供しました。学生は、テーマに関する様々な分野の講義を受講するとともに、石狩川及び支川流域の「治水」「利水」「環境」に関する様々な施設の視察や水質調査に参加し、国・文化・学問分野の異なる学生とのディスカッションにより、インドネシアあるいはタイの流域における現状と課題を解決するためのマスタープランをグループで作成しました。最終日に行った報告会には、コンソーシアム7大学の教員が参加し、共同で評価を行いました。なお、本サマースクールでは、最終報告会の他、初日に国別

報告会(事前学習の成果発表)、期間中に中間報告会を行い、プログラム受講を通じた学生の成長が比較できる構成になっています。更に、事前と事後に学生が記入する自己評価表を、評価の対象としています。

一方、本学が極東ロシアの5大学と協働する「極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家庭教育プログラム(通称「RJE3プログラム」)では、8月に「基礎科目」を開講し、ロシア5大学の学生25名、北大生17名の計42名が受講しました。講義による「RJE3概論」とフィールドワークによる「RJE3特別実習」で構成される「基礎科目」は、日露のRJE3参加学生全員が本学に集まり、極東・北極圏の地域的課題について分野横断的に学ぶことができる唯一の機会であり、プログラムの中で最も重要な科目です。両科目を修了した日露学生37名については、日露教員が共同評価を行い、修了証を授与しました。

「RJE3概論」では、日露の教員19名が、「歴史と文化」「自然環境」「地域開発」「現在と未来(政治・経済)」の4つのテーマに関する講義を提供するとともに、小樽市では「歴史的建築物の保存・再生」、平取町では「アイヌ文化体験」の選択型エクスカージョンを行いました。最終日には、日露学生の混成グループのプレゼンテーションにより、分野横断的な講

義で学んだ成果を発表しました。また、これに先立ち開講した「RJE3特別演習」では、ロシア・ヤクーツク(「環境観測実習」、地球環境科学研究所 杉本敦子教授)、北海道礼文島(「考古学・人類学実習による国際フィールドスクール」、アイヌ・先住民研究センター 加藤博文教授)、札幌・札幌周辺(「寒冷地開発技術ワークショップ」、工学研究院 瀬戸口剛教授)において、それぞれ1週間~10日間程度のフィールドワークを行いました。受講した学生は、各自の専門性に合ったテーマ別の実習を行うことで、座学では得られない実地での知識を高めることができました。

なお、両プログラムとも、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」により補助金支援を受けて実施しており、本学及び国際交流協定校の学生は、以上の科目の受講により、単位付与あるいは認定を受けることができます。

(国際本部国際連携課)



【PARE】ポール・サバティエ大学教授による講義



【PARE】河川の水質サンプリング調査を行う学生



【PARE】プログラム閉校式



【RJE3】日露学生のグループディスカッション



【RJE3】環境観察実習 ロシア・ヤクーツク



【RJE3】考古学・人類学実習 礼文島浜中2遺跡

国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 人獣共通感染症グローバルステーションが 第3回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議を開催



集合写真

9月14日(月)・15日(火)に人獣共通感染症センターで“The Third Meeting of the Consortium for the Control of Zoonoses (第3回コンソーシアム会議)”を開催しました。国際連携研究教育局が平成26年4月に本学に設置されて以来、本グローバルステーションでは、メルボルン大学、アイルランド国立大学ダブリン校、アブドラ国王科学技術大学及び本学の間で人獣共通感染症の克服に向けた研究及び教育を目的とするコンソーシアムを形成しました。メルボルン大学ユニットからDavid C. Jackson教授をはじめ

とする7名、アイルランド国立大学ダブリン校ユニットからWilliam W. Hall教授をはじめとする4名、アブドラ国王科学技術大学からArnab Pain教授をはじめとする3名の計14名の研究者を招へいし、本グローバルステーションの教員16名とともに、大学及び分野を超えた研究の進捗報告と、新規研究課題について活発な意見交換が行われました。

続く16日(水)・17日(木)には、SaSSOH (Sapporo Summer Seminar for One Health) を獣医学研究科講義棟で開催しました。アイルランド国立



大学院生とのディスカッション

大学ダブリン校ユニットのStephen Gordon教授が、結核とOne Health*についての特別講義を開き、またメルボルン大学ユニットの博士研究員3名による発表が行われ、活発な情報交換と議論が交わされました。

*One Health

地球上の健全な生態系の維持は、ヒトと動物両者の健康が相まってはじめて達成されるという概念。

(国際連携研究教育局)

米国スタンフォード・ヘルスケアと日立の来訪

9月15日(火)、国際連携研究教育局(GI-CoRE)は、米国スタンフォード・ヘルスケアのスリダー・シシャドリ癌・心循環器系ライン担当副院長、ディヴィッド・コナー財務担当副院長、マーク・トトリック企画設計担当副院長、GI-CoRE量子医理工学グローバルステーションのスタンフォード大学ユニット長であるクインス・リー教授、日立アメリカ社の梅井健太郎現地部長代理、株式会社日立製作所ヘルス

ケア社粒子線治療事業部の中村文人事業部長及び同社粒子線治療システム営業本部の金丸大志氏の計7名の来訪を受けました。数時間という短時間の滞在ではありましたが、寶金清博病院長表敬、陽子線治療センター見学の後、山口佳三総長、安田和則理事・副学長を表敬訪問しました。陽子線治療センターでは、副センター長・量子医理工学グローバルステーションの梅垣菊男教授から加速器室や治療室の説明があ

り、予定時間を超過しての見学となりました。山口総長、安田理事・副学長表敬では、安田理事・副学長から本学の沿革及び将来のビジョンと、GI-CoREの概要が説明され、来訪者からは学生数や男女比、留学生の受入状況、国際交流協定の締結状況等について質問が寄せられました。

(国際連携研究教育局)



懇談風景



集合写真

平成27年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を実施

本学に多数設置され、日々の教育・研究時に使用されている局所排気装置等については、労働安全衛生法において、性能維持のための定期自主検査が義務づけられており、具体的な検査方法は、厚生労働省の指針に示されています。指針に沿った検査を行うために必要な知識・技能を習得することにより、各研究室における局所排気装置等の適正な維持管理を推進することを目的に、「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を実施しました。今年度は、9月14日(月)から16日(水)に、理学部6号館にて計5回実施し、合計55人が受講しました。

講習では、「局所排気装置の定期自主検査指針」に則ったドラフトチャンバーの定期自主検査を実施できるようになること、当該検査の際に「不具合の発見」と「問題の切り分け」ができ、各自におけるメンテナンスとメーカー等への依頼を適切に使い分けられるようになることを目標に、川上貴教安全衛生本部准教授による座学により、局所排気装置の定期自主検査指針及び検査に使用する測定器等に関する知識を学びました。また、金澤浩明茨城大学工学部技術部技術専門職員の実技により、実際の検査を体験することで、検査の本質が「性能の確認

と維持」であること、通常の使用方法においても定期的なメンテナンスが必要になることの理解を深めました。

なお、化学物質取扱講習会の受講、講習後に実施する各研究室のドラフトチャンバーの検査結果提出等、一定の条件を満たした本講習受講者には修了証を発行することとしています。

また、本講習は、今後毎年度開催することを予定しています。教育・研究時に局所排気装置等を使用する教職員におかれましては、積極的に受講するようお願いします。

(総務企画部総務課安全衛生室)

講習の内容

1. 局所排気装置の定期自主検査指針
2. 検査に使用する測定器等に関する知識
3. フード、ダクト及び吸排気的能力に関する検査方法（実技）
4. ファン及び電動機に関する検査方法（実技）



講義の様子



実技の様子

平成27年度利益相反セミナーを開催

9月8日（火）、医学研究科臨床大講堂において「利益相反セミナー」を開催しました。利益相反を対象とした全学的なセミナーは昨年度に引き続き2回目の開催となり、約100名の参加がありました。

冒頭で本学利益相反審査会会長である安田和則理事・副学長から挨拶があった後、「産学官連携における利益相反の考え方～大学の利益相反マネジメント～」と題して、新日本有限責任

監査法人の公認会計士である江戸川泰路氏から、利益相反マネジメントの歴史的経緯、目的、方法及び留意点などについて、最近の利益相反に関するトピックを交えて講演いただきました。

講演の中では、大学において産学連携活動を行うことは重要だが、同活動によって利益相反の状態は必ず発生し、その状態は社会から疑念を持たれる可能性があるため、大学の社会的信頼の確保及び教職員の保護のために利

益相反マネジメントが必要であるといった説明がありました。

また、大学における産学連携活動で利益相反が懸念される事例が具体的にあげられ、集まった参加者は、利益相反とそのマネジメントについての理解を深めていました。

（研究推進部産学連携課）



挨拶をする安田理事・副学長



講演を行う新日本有限責任監査法人 江戸川氏



セミナー風景

第12回八大学産学官連携関係本部長会議を開催

産学・地域協働推進機構では、9月2日（水）、創成科学研究棟大会議室において、第12回八大学産学官連携関係本部長会議を開催しました。

本会議は、産学官連携を取り巻く厳しい情勢を踏まえ、主要国立大学の産学官連携関係本部間の情報交換を密にするとともに、有益なノウハウの相互活用等を狙いとしています。

川端和重産学・地域協働推進機構長の挨拶に始まり、坂本修一文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長より「今求められる本格的産学連携」、竹中謙正経済産業省産業技

術環境局技術振興・大学連携推進課大学連携推進室室長補佐より「産学連携活動のカイゼンを通じた更なる発展に向けて」、また、田名部拓也特許庁総務部企画調査課知的財産活用企画調整官より「企画調査課の施策のご紹介」のご講演をいただきました。その後の討議の部では、各大学が抱える様々な問題について活発な議論が行われました。特に、産学官連携に関する課題等の討議では、オープンイノベーション時代における産学連携の在り方、大学のグローバル化に向けた産学連携の課題、特許法第35条（職務発明制度）の

改正への対応及び不正競争防止法の改正への対応において有意義な意見が交わされました。

また、サッポロビール園で行われた懇親会には44名が参加し、相互に有益な情報交換がなされ、盛況のうちに閉会となりました。

今後も本会議は定期的に行われる予定であり、産学官連携の発展に寄与することが大きく期待されています。

（産学・地域協働推進機構）



川端機構長の挨拶



文部科学省産業連携・地域支援課 坂本課長の発言



討議の様子

「研究開発のための各種支援制度セミナー」を実施

9月9日（水）に、本年7月に開設されたばかりの大地みらい信用金庫札幌支店にて、「研究開発のための各種支援制度セミナー」（主催：大地みらい信用金庫、本学産学・地域協働推進機構）を実施しました。このセミナーは、道内の研究開発型企業と大学、高

等専門学校及び公設試験研究機関等の研究者を対象に、各支援機関の施策の説明を行い、研究資金の獲得を促進することを狙いとして企画したものです。

まず、本学産学・地域協働推進機構の牧内勝哉副機構長の開会挨拶から始まり、国立研究開発法人新エネル

ギー・産業技術総合開発機構（NEDO）イノベーション推進部主査の井出 弘氏より、「NEDOの支援制度概要～新エネルギーベンチャー技術革新事業、エネルギー・環境新技術先導プログラム、スタートアップイノベーター（SUI）など～」をテーマに説明いた

いただきました。続いて、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）イノベーション拠点推進部マッチングプランナーの伊藤公裕氏より、「JSTマッチングプランナープログラム他公募のご紹介」、経済産業省北海道経済産業局地域経済部産業技術課のご担当者様より、「経済産業省の地域企業・大学等向け研究開発・知的財産関連支援策のご紹介」をいただきました。セミナーの閉会として、大地みらい信用金庫常務理事で札幌支店長の赤田勝由氏より、来場のお礼と「大地みらい信用金庫札幌支店のセミナー会場、会議室を有効にご活用いただきたい」との挨拶

がありました。

セミナー終了後は、個別の相談会も行い、時間ぎりぎりまで活発な質問等がありました。

大地みらい信用金庫と本学は連携協

定を結んでおり、札幌支店の開設はこの連携をますます強めることになるかと思えます。

（産学・地域協働推進機構）



牧内副機構長の開会挨拶



講演の様子

「第4回北大発ベンチャー促進懇談会9月例会～New Trend！エレクトロニクス商社のベンチャー支援～」を実施

9月10日（木）情報科学研究科棟中会議室にて「第4回北大発ベンチャー促進懇談会9月例会～New Trend！エレクトロニクス商社のベンチャー支援～」を実施しました。

この懇談会の目的は、本学の教員、学生などが保有する起業計画を発掘し、支援の機会を拡大することであり、主催が本学産学・地域協働推進機構、共催として独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部、後援が経済産業省北海道経済産業局、北海道、札幌市、北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会、一般財団法人さっぽろ産業振興財団、公益財団法人北海道中小企業総合支援センター、株式会社北洋銀行、株式会社東京大学エッジキャピタル、北海道ベンチャーキャピタル株

式会社となっています。

まず、産学・地域協働推進機構の牧内勝哉副機構長の趣旨説明と挨拶から始まり、ショートプレゼンテーションとして、①「エレクトロニクス商社の力を大学発ベンチャーが活用するためには」をテーマに株式会社リョーサン取締役・電子機器事業本部長の吉泉康雄氏、②「最初の一步から～NEDOが行う大学発ベンチャー支援」をテーマに国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）イノベーション推進部主査の英美喜夫氏、③「調和系工学研究室とベンチャーのコラボレーション」をテーマに株式会社調和技研取締役の川村秀憲氏（本学情報科学研究科准教授）に登壇いただきました。最後は、工学系連携推進部

長の増田隆夫教授の挨拶で閉会となりました。

なお、ショートプレゼンテーションの後、3名の講師による個別面談会を行いました。事前もしくは当日に申し込んだ参加者からの起業及び起業経験に関する質問や相談に対応していただきました。

既に起業プランがある方はもちろん、漠然とした起業への思いを抱いている方は、以下へご相談ください。

◆問い合わせ先

産学・地域協働推進機構産学推進本部
創業デスク担当 須田
E-mail：startup@mcip.hokudai.ac.jp
内線：9559

（産学・地域協働推進機構）



株式会社リョーサン 吉泉取締役



NEDO 英主査



情報科学研究科 川村准教授

女性研究者学際交流シンポジウム「大学におけるメンタリング再発見～タテヨコナメのつながりが生み出すもの～」を開催



パネルディスカッションの様子

9月24日（木）にフロンティア応用科学研究棟レクチャーホールにおいて、女性研究者支援室主催のシンポジウム「大学におけるメンタリング再発見～タテヨコナメのつながりが生み出すもの～」を開催しました。

本シンポジウムは、文部科学省「研究大学強化促進事業」の一環として行われ、女性研究者の研究力とマネジメント力の向上を目的としています。今年度は、研究者がロールモデルと出会いキャリア構築をサポートするためのメンタリング制度をテーマに取り上げました。

基調講演では、株式会社東芝でキャリアを重ね、現在は国立研究開発法人情報通信研究機構の監事を務める土井美和子氏を招き、「キャリア構築とメンタリング」と題して、部下のキャリ

アを伸ばす上司の在り方、立場に関わらず互いに高め合う関係性について講演いただきました。また、メンタリングを研究する愛知淑徳大学文学部教授の渡辺かよ子氏からは、「メンタリングと生涯発達—歴史・理論・現状」という題で、メンター・メンティー・社会にとってのメンタリングの意義及び有効性について講演いただきました。

パネルディスカッションでは、先端生命科学研究院の出村 誠教授、創成研究機構の上原亮太特任助教、スラブ・ユーラシア研究センターの高橋沙奈美助教を交えて、大学の研究者にとっては、あらかじめ相談相手として用意された年長のメンターだけではなく、たとえ他の研究分野であっても、研究者として一歩先を行く先輩や、ライフイベントにおける経験者との交流

機会が望まれると議論されました。

シンポジウムには学内外から30名程度の参加者が集まり、質疑応答等活発な議論が行われました。参加者からは、「自己のキャリア形成について、改めて考えるきっかけとなった」「新しい学びへとつながった」との意見が寄せられ、日本の大学では未だ定着していないメンタリング制度への期待の高まりが感じられました。

今後も女性研究者支援室では、研究者の能力向上やキャリア構築に役立つ機会を提供してまいりますので、ご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

（人材育成本部）

■ 部局ニュース

農学研究院で食資源研究棟竣工記念式典を挙

農学研究院では、食資源研究棟の竣工を祝い、9月29日（火）に竣工記念式典を行いました。

竣工記念式典は、横田 篤農学研究院長の式辞に続いて、上田一郎理事・副学長（山口佳三総長の代読）、松井博和名誉教授から祝辞が述べられました。竣工記念式典終了後は、内覧会として温室及び遺伝資源維持管理のためのリソース室などの施設を見学した

後、1階ホールにて北海道らしい牛乳、各地の水、お菓子を用意して懇談会を行い、盛会のうちに閉会となりました。

食資源研究棟は、ミッションの再定義における本学の農学研究に関連する領域として、「生物生産の基盤となる基礎生物科学、持続的生産管理システム、食品の生体調節機能、多様な環境における生態系機能やその保全等に関

する世界トップクラスの高い研究実績を生かし、食料の持続的生産や、それを保障する農水産環境の実現、食によるヘルスイノベーションを通じた健康増進の実現に寄与する」と定められており、このミッション遂行のために大きな力となることが期待されています。

（農学院・農学研究院・農学部）



式辞を述べる横田研究院長



祝辞を述べる上田理事・副学長



祝辞を述べる松井名誉教授



食資源研究棟



内覧会の様子

薬学研究院・薬学部で「北海道大学薬学部創立60周年及び総合研究棟建築・管理研究棟改修完成記念式典」を開催

薬学研究院・薬学部は1954年に医学部薬学科として設置され、昨年で創立60周年を迎えました。昨年は建物の改修・改築工事中であったため、改修・改築工事が終了した今年、ホームカミングデーにあわせて9月26日（土）に「北海道大学薬学部創立60周年及び総合研究棟建築・管理研究棟改修完成記念行事」を執り行いました。

記念式典の開催に先立ち、午後2時30分から改修工事が終了した管理研究棟と新築した総合研究棟の内覧会を行い、山口佳三総長はじめ学内関係者並びに名誉教授の諸先生が参加し、新しくなった建物や設備が披露されました。午後3時より開催した記念式典では、南 雅文薬学研究院長から式辞が述べられ、山口総長の挨拶の後、新川

詔夫北海道医療大学長及び渡辺泰裕北海道薬科大学長に祝辞をいただきました。記念式典には、学内関係者のほか、全国から多くの同窓生や名誉教授にご参加いただき、現任教職員を合わせ130名以上が参加し、盛会のうちに終了しました。

（薬学研究院・薬学部）



総合研究棟の内覧会



式辞を述べる南研究院長



挨拶する山口総長



会場の様子

薬学研究院で「The 1st HU-TMU-KU Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences」を開催

8月29日（土）に、薬学部臨床講義室で「The 1st HU-TMU-KU Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences（北海道大学・台北医学大学・九州大学 薬学ジョイントシンポジウム）」を開催しました。本学部では、人類の福祉及び科学の発展に寄与する創薬及び生命科学分野での研究を

実施し、また、これらの分野の第一線で活躍できる研究者の育成に努めています。その一環として、創薬及び生命科学分野の一流の研究者を招聘し、講演と活発な議論の場を提供するとともに研究者間の交流を深め、当研究院に所属する教員及び大学院生の研究意識を刺激することを目的に、ファーマサ

イェンスフォーラムを毎年開催しています。更に、国際性のある人的交流と研究交流を深めるべく、8月28日（金）には実践的な臨床教育と基礎薬学研究が盛んな台北医学大学と大学間協定を締結しました。

（薬学研究院・薬学部）

レセプション

8月28日（金）午後6時から、薬学研究院・薬学部多目的講義室において、レセプションを行いました。同レセプションは、29日（土）薬学研究院・薬学部において開催の「第1回北海道大学・台北医学大学・九州大学薬学ジョイントシンポジウム」及び、

本学と台北医学大学との間で28日（金）に調印された大学間交流協定を記念して開催しました。レセプションには本学関係者及び台北医学大学と九州大学からのシンポジウム講演者や参加者約80名が参加し、南 雅文薬学研究院長、山口佳三総長、及びChien-Huang

Lin台北医学大学副学長からの挨拶の後、笠原正典医学研究科長による祝杯の音頭で懇談に移り、和やかな雰囲気の中、3大学関係者の交流が行われました。最後は、Jackson Chieh-Hsi Wu台北医学大学薬学部長の乾杯で盛会のうちに終了しました。



挨拶する南研究院長



挨拶する山口総長



Wu台北医学大学薬学部長（左）、台北医学大学の学生と山口総長

ジョイントシンポジウム

今回の「The 1st HU-TMU-KU Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences」は、ファーマサイエンスフォーラムの一貫として本学、台北医学大学、九州大学のジョイントシンポジウムとなりました。本シンポジウムには、台北医学大学の副学長・薬学部長・短期交換留学生12名を含む、計156名が参加しました。

シンポジウムは、1) natural products and medicinal chemistry（天然物化学と創薬化学）、2) biophysical and analytical chemistry（生物物理化学と分析化学）、3) biochemistry, pharmacology and DDS（生化学、薬理学と薬物送達学）、4) clinical pharmacy and pharmacology（臨床薬学と臨床薬理学）の4つのセッションからな

る薬学研究領域を広範にカバーする内容で、本学、台北医学大学、九州大学から4名ずつ、計12名の講師による講演が行われました。

参加者は熱心に講師の話に聞き入り、講演後の質疑応答時には多くの質問が寄せられ、盛況のうちに終了となりました。



Wu台北医学大学薬学部長（左）、南研究院長、大戸茂弘九州大学薬学研究院長（右）



講演者の発表



熱心に話を聞く参加者

平成27年度 地球環境科学研究所公開講座「北海道の野生生物：自然史と環境変化への応答」が終了

地球環境科学研究所では、平成27年度公開講座「北海道の野生生物：自然史と環境変化への応答」を8月19日（水）から9月30日（水）まで全6回で開講し、18歳から80歳代までの市民72人が受講しました。

自然豊かな大地と言われる北海道でさえ、多くの市民にとって野生の生き

物の一生や環境変化にともなう彼らの変化に気づくのは至難の業です。この公開講座では、北海道を象徴する生き物たちの最近について、日頃から野生生物研究に携わる6人の研究者たちが最新の研究成果を報告しました。熱心に聴講される受講者が多く、すべての講義で多数の質問が出るなど、受講者

からも非常に好評のうちに終了となりました。

最終回の講義終了後、全6回の講義のうち4回以上出席した63人の受講者に修了証書が授与されました。

（環境科学院・地球環境科学研究所）



久保川厚研究院長による開講挨拶



小泉逸郎准教授による講義（第1回）

生命科学学院FD研修「就活後ろ倒し・留学生支援と学生指導を考える」を開催

生命科学学院では9月17日（木）に理学部7号館310室において、FD研修「就活後ろ倒し・留学生支援と学生指導を考える」を開催しました。今回は担当教員、理学・生命科学事務部、理学研究院国際化支援室から29名が参加しました。

一般社団法人日本経済団体連合会（経団連）の「採用選考に関する指針」により、就職活動が後ろ倒しのスケジュール（企業の広報活動開始3月1日以降、選考活動開始8月1日以降）に変更になり、今年度卒業・修了予定の学生は就職活動と学業への影響を受けています。また、留学生の研究指導も年々増えており、修了後のキャリア支援も求められています。そこで今回のFD研修では、キャリアセンターと人材育成本部から講師を招き、就活後ろ倒しの現状とともに、留学生支援の

強化策について、学生への研究指導・進路指導のあり方について考える機会を設けました。

キャリアセンターのキャリアアドバイザーである高橋 智氏からは、学部・修士の就職活動後ろ倒し初年度の現状について紹介がありました。経団連加盟・非加盟企業で実際の採用スケジュールが異なり就活がかえって長期化したこと、またこれに同期して相談件数も増加していることなどがあげられました。キャリアセンターでは次年度に向けた支援イベントとともに、今年度卒業・修了年次対象の最後の説明会や個人相談も実施中であることの紹介もありました。参加者からは教員推薦の扱い方、インターンシップの指導の在り方など活発な議論もありました。

人材育成本部の樋口直樹特任教授からは、MC・DC・PDに対するキャリ

アパス支援プログラムや大学院共通授業科目提供、留学生への支援強化について紹介がありました。プログラム受講生は実際、民間企業内定率が非常に高いこと、またイベント案内や企業とのマッチングを図る登録システム（Hi-system）への登録数が理系全体でかなり高くなったことの紹介がありました。またI-HOP留学生相談窓口も強化され、日本語eラーニングなどの支援環境も整備されていることが紹介されました。

最後に、出村 誠先端生命科学研究所長より文部科学省博士人材データベースの全国的な取り組み（参加大学は平成26年度12大学、平成27年度20大学）が紹介されました。博士後期課程～博士学位取得～社会人キャリア形成の長期的なデータベース構築のパイロット運用で、本学では今年度、生命

科学院を含む4割の大学院が参加予定となっており、博士後期課程の指導教員への協力依頼もなされました。

学位授与ディプロマポリシーでは、必要な研究指導を受けるとともに各課程の優れた知識・能力等の修得が必要

です。後者を実現するには、キャリアセンターや人材育成本部のキャリア支援や共通科目など全学的に提供される様々な人材育成プログラムの活用が有効であり、教員側もこれらの教育指導環境の改善が専門研究の指導にプラス

に働くことを見直すきっかけとなりました。

(生命科学院・先端生命科学研究院)



キャリアセンター 高橋氏の説明



樋口特任教授による人材育成本部の説明

平成27年度文学研究科FD研修会を開催

文学研究科・文学部では、教員資質向上・授業改善などを目的として、随時、FD研修会を行っています。

今回は、9月18日(金)午後1時から同2時30分まで、人文・社会科学総合教育研究棟W409室にて、国際本部留学生センターのシートン、フィリップ・アンドリュウ教授を講師として招き、「スーパーグローバル大学における文系の重要性：現代日本学プログラムの観点から」というトピカルな題目により、本研究科の世界におけるプレゼンスの向上について国際的な視点から種々話がありました。

講師のシートン教授は、ロンドン出身で1994年に英語教師として初来日して以来、日本との関わりが深く、本学には2004年に現メディア・コミュニケーション研究院准教授として赴任し、今日に至っています。現代日本学

プログラムの担当授業は日本史、歴史学、スタディースキル等で、具体的な研究テーマとして戦争記憶、歴史認識論争(靖国問題、教科書問題等)、北海道・サハリンの歴史などを扱っています。

研修会では、まず、シートン教授が責任を担っている留学生のための現代日本学プログラムの説明がありました。本研究科との協力しうる事柄として、授業の相互乗り入れの提案がありました。続いて、スーパーグローバル大学としての本学文系学部が、いかに国内並びに国際社会にアピールできるかについて話がありました。大学を「教育の場」から「[技術等]訓練の場」に転換したい政治家に対しては、文系はその特徴ゆえに、日本と日本の大学に貢献できるとして諸点挙げました：1. 技術大国日本への貢献、2.

日本人のみならず外国人にとっても魅力的なものとする貢献、3. ランキングの上昇への貢献、そしてこれら3点についてさらに詳しく議論を展開しました。

約1時間の話に続き、7～8人の参加者からの質疑に情報豊かで示唆に富む応答がなされました。研修会は文学研究科教職員約40名が参加しました。

(文学研究科・文学部)



講演を行うシートン教授

文系4研究科・学部及びスラブ・ユーラシア研究センターで 消防訓練を実施

文系4研究科・学部及びスラブ・ユーラシア研究センターでは、10月5日（月）午後1時10分より、教育学研究院・教育学部，文学研究科・文学部，法学研究科・法学部，経済学研究科・経済学部，スラブ・ユーラシア研究センター合同の消防訓練を実施しました。

当日は肌寒い曇りの天候のなか，教職員をはじめとした約20名が参加して実施され，吉見 宏経済学研究科長の挨拶のあと，防災設備点検業者による防火戸・防火シャッター・消火器の取扱説明と，火災の発生を想定した初期消火訓練では，実際に消火器を利用して消火する訓練を行いました。

参加者は防火意識を新たにし，訓練の重要性を再認識するとともに，防火設備などの取扱方法についてより一層理解を深め，訓練を無事終了しました。

（経済学研究科・経済学部）



消火訓練の様子



工学系部局で安全衛生管理講演会を開催

工学系部局では、「工学部安全の日」関連行事として，毎年学外から講師を招いて，安全衛生管理に係るテーマで講演会を開催しています。

本年度は，北海道札幌方面北警察署交通第一課長の蝦名正美警部を講師に迎え，「自転車による交通事故とその回避方法」と題して，9月29日（火）に工学部オープンホールで安全衛生管理講演会を実施しました。

学内でも近年自転車の危険な走行が目立つようになり，また本年6月には改正道路交通法が施行され，違反走行を繰り返す自転車利用者に自転車運転者講習が義務づけられることとなったため，本年度のテーマとして選択しました。

講師は，交通安全指導に長く携わってこられたため，軽視されがちだが大事故につながりやすい違反実例等，具

体的な事例を紹介されました。また，DVD視聴では視覚的に理解させるための事故事例が紹介されました。

講演には，140名ほどの教職員や学生が参加しましたが，「大変有意義であった」との感想が多く聞かれ，充実した講演会となりました。

（工学院・工学研究院・工学部，情報科学研究科，量子集積エレクトロニクス研究センター）



講演を行う蝦名課長



講演に真剣に耳を傾ける参加者

工学研究院で寄附分野「エコセーフエネルギー分野」 最終シンポジウムを開催

9月8日（火）、学術交流会館講堂において、工学研究院主催による寄附分野エコセーフエネルギー分野の最終シンポジウム『「エコセーフエネルギー」から「循環・エネルギー技術システム」へ』を開催しました。エコセーフエネルギー分野は、平成24年10月に工学研究院環境創生工学部門に3年間の寄附分野として設置され、次世代に向けた安全・安心な再生可能エネルギーの普及促進のために、バイオマス（廃棄物系、未利用、資源作物）利活用を中心とした、技術、環境、経済、社会を考慮した実行可能な技術・システム及び事業展開の提案を行うことを目的に活動してきました。本シンポジウムでは、9月末に寄附分野の閉講を迎えるに当たって、エコセーフエネルギー分野の教員及び関係者により成果報告と次期寄附分野「循環・エネルギー技術システム分野」へどのように繋げていくかのパネルディスカッションを行いました。

開催にあたり、山口佳三総長、名和豊春工学研究院長から挨拶があり、続いて第I部として「寄附分野エコセーフエネルギー分野成果報告会」を開催し

ました。最初にエコセーフエネルギー分野の藤山淳史特任助教が「寄附分野エコセーフエネルギー分野の活動報告－出版に向けて－」と題して寄附分野の概要と活動の報告を行いました。続いて、寄附会社でもある大成建設株式会社の五十嵐正氏が「下水汚泥と生ごみの混合消化システムの普及に向けて」と題して、日立造船株式会社の佐々木秀明氏が「バイオマスのガス・熱利用」と題して、岩田地崎建設株式会社の上村英史氏が「バイオマス産業都市による地域創生－バイオマス産業都市・稲わらの燃料化・家畜ふん尿のバイオガス化システムと水素サプライチェーン－」と題して、各研究グループが取り組んだ研究の成果について報告を行いました。

第II部では「新寄附分野循環・エネルギー技術システム分野開設に向けて」と題して、パネルディスカッションを行いました。冒頭、話題提供として、寄附分野の世話役である循環計画システム研究室の石井一英准教授が「寄附分野の変遷と新寄附分野開設に向けて」と題して、これまでの4期12年間の寄附分野の変遷を振り返るとと

もに、次期寄附分野の方針について講演を行いました。その後、パネリストに藤山特任助教、五十嵐氏、伊藤俊裕氏（岩田地崎建設株式会社）、上村氏、今西昌志氏（北海道環境生活部循環型社会推進課）を迎え、石井准教授のコーディネートのもと、パネルディスカッションを行い、エコセーフエネルギー分野の活動を自己評価するとともに、バイオエネルギー普及への課題や次期寄附分野で目指すべきことなどについて、会場の参加者も交えて、活発に議論が行われ、終了予定時刻を延長し盛会のうちに終了しました。

シンポジウム終了後は、京王プラザホテルにて意見交換会を開催し、名和工学研究院長をはじめ内外の多くの関係者が参加して、引き続き活発な意見交換が行われました。

なお、10月27日（火）には、百年記念会館にてエコセーフエネルギー分野の閉講式と新寄附分野循環・エネルギー技術システム分野の開設式が行われました。

（工学院・工学研究院・工学部）



山口総長の挨拶



名和工学研究院長の挨拶



パネルディスカッションの様子

医学部・歯学部合同慰霊式を挙行

医学部及び歯学部では、9月18日（金）午後1時30分から、学術交流会館講堂において、この1年間に系統解剖、病理解剖及び法医学解剖のため、本学に尊い御遺体を捧げられ、その御遺体を通して病因・病態の究明に、あるいは人体構造機能の理解に、貴重な御教示を遺された379名の御霊の御冥福をお祈りするため、慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、御遺族、総長、理事、部局長、教職員、学生、学外関係者等約400名が参列しました。

式は解剖体御芳名奉読の後、参列者全員による黙祷を行い、次いで、笠原正典医学部長及び横山敦郎歯学部長から、御霊の御意志に報いるためにも一層の教育・研究・診療の発展に努めたい旨の追悼の辞がありました。その後、参列者による献花を行い、最後に笠原医学部長から謝辞があり、慰霊式は厳粛のうちに終了しました。

（医学研究科・医学部、歯学研究科・歯学部）



追悼の辞を述べる笠原医学部長



追悼の辞を述べる横山歯学部長



献花をする山口佳三総長



謝辞を述べる笠原医学部長

動物慰霊式を挙行

医学研究科附属動物実験施設

医学研究科附属動物実験施設では、9月24日（木）午後4時から、平成27年度動物慰霊式を医学部学生会館「フラテ」ホールにおいて執り行いました。

本慰霊式は、医学並びに生命医科学の教育研究のために多数の動物の尊い生命が犠牲になっていることを厳粛に

受け止め、動物の霊を追悼するとともに、生命の尊厳と倫理について啓発することを目的に実施しているもので、教職員、学生等約150人が参列しました。

はじめに有川二郎施設長から追悼の辞を述べた後、笠原正典研究科長の挨拶、参列者全員による黙祷・献花を行

いました。最後に有川施設長から適正な動物実験の実施について、一層の理解と協力を願う旨の挨拶があり、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（医学研究科・医学部）



挨拶を述べる笠原研究科長



参列者による献花



挨拶を述べる有川施設長

遺伝子病制御研究所

遺伝子病制御研究所では、9月29日（火）午後3時から遺伝子病制御研究所セミナー室において、昨年9月から1年間に学術研究の礎として実験に供せられた動物の御霊を慰霊するため、動物慰霊式を執り行いました。

慰霊式には研究所教職員、大学院生・大学生等関係者が多数参列し、はじめに、高岡晃教研究所長から追悼の

辞と共に、生命の尊さを常に考え、動物福祉に一層配慮した研究態勢を考えていくことを願う旨の挨拶がありました。引き続き、参列者全員による黙祷、研究分野等代表者による献花が行われ、最後に、清野研一郎動物実験施設長から追悼の辞と共に、今後とも諸法令を遵守し、適切な動物実験の実施について、理解と協力を願う旨の挨拶

がありました。

この動物慰霊式を通して、参列者全員が生命の尊厳、倫理観について改めて認識し、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（遺伝子病制御研究所）



挨拶を述べる高岡所長



挨拶を述べる清野施設長

獣医学研究科

獣医学研究科では、10月2日（金）午前11時から、獣医学研究科講堂において、動物慰霊式を執り行いました。慰霊式は研究・教育のために提供された動物や附属動物病院で治療の甲斐なく死亡した動物の御霊に対し追悼の意を表するとともに、獣医学発展の陰に

多数の動物の尊い生命が犠牲にあることを厳粛に受け止め、生命への畏敬と倫理的責任感を啓発することを目的としたもので、教職員、学部・大学院生のほか、飼い主等約250人が参列しました。

はじめに、動物の御霊に対して黙祷

を捧げた後、稲葉 睦研究科長の式辞、参列者による献花、滝口満喜附属動物病院長による講話が行われ、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（獣医学研究科・獣医学部）



式辞を述べる稲葉研究科長



献花する参列者

リーディングプログラム2期生採用式を挙行 物質科学のグローバルリーダーをめざして活動開始



採用式後の記念撮影

平成25年度に採択された物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラムでは、10月1日（木）の正式採用に先立ち、8月25日（火）にプログラム2期生採用式を挙行了しました。7月末に5専攻*の修士課程1年次の学生を対象として選抜試験を実施し、12名をプログラム2期生として採用しました。指導教員とプログラム担当教員も出席する中、プログラム責任者である新田孝彦理事・副学長が、一人ひとりにプログラム認定証を授与しました。

採用式に引き続き、応用倫理学が専門である新田理事・副学長自らが、Ambitious研究倫理セミナー「なぜ科学技術の倫理なのか～コミュニケーションの概念をめぐって～」と題して

講義しました。このウェルカムセミナーを通して、2期生は「研究という行為」と「市民社会とのコミュニケーション」の関係についての理解を深め、グローバルリーダーとなるには高い倫理観が求められることを再認識しました。

さらに、採用式翌日にビジネスマナー研修を開催しました。9月から開始する企業セミナーの事前準備として、岡部祥子氏（コーディネーター・スタッフ）を講師に迎え、身だしなみ・立ち居振る舞い・挨拶・言葉遣いといったビジネスの基本マナーから、訪問・面会時の実践的なマナーまで、終日スーツ姿で研修を受けました。マナー研修を受けた2期生は、9・10月に協力企業8社から2社を選択して、

企業研究者・人事関係者との座談会や研究発表交流会、研究所・工場見学等の交流を行い、産業界が期待するドクター像の理解を深めていきます。

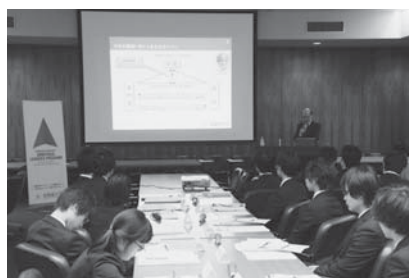
新たに加わった2期生の活動は、スタートしたばかりです。25年度採用のパイロット生、26年度採用の1期生とともに、物質科学の分野で世界を切り開き、産業界で活躍する博士を目指し切磋琢磨します。

※リーディングプログラムでは、総合化学院総合化学専攻、生命科学院生命科学専攻、環境科学院環境物質科学専攻、理学院数学専攻、工学院量子理工学専攻に所属する大学院生を対象に募集・選抜を行っています。

（総合化学院）



採用式で認定証を授与される2期生



Ambitious研究倫理セミナーの様子



ビジネスマナー研修で名刺交換をする様子

低温科学研究所が宇宙航空研究開発機構（JAXA）平成27年度第一次観測ロケットによる微小重力実験を実施

低温科学研究所は、9月11日（金）に宇宙航空研究開発機構（JAXA）平成27年度第一次観測ロケットを使用した微小重力実験を実施しました（研究代表者：木村勇気准教授）。

宇宙ダスト（星のかけら）と呼ばれる微粒子は、天体より放出されるガスから生成します。その中でも最初に生成する微粒子は、ナノメートルのサイズから惑星に至る固体物質の変遷において、非常に大きな影響を与えます。そのため、その最初の物質の同定と生成条件の理解は、宇宙の物質循環を知る上で根幹となります。

本実験では、観測ロケットS-520-30号機の先端部に当研究所技術部の協

力で作製した「浮遊ダスト赤外スペクトルその場測定装置」を搭載し、ロケットの弾道飛行中の微小重力環境下で酸化アルミニウムやシリカの蒸気から微粒子が生成・成長する過程の直接測定を行いました。この過程は「星のかけらの生成・観測」とも表現できます。今後、今回の観測結果を活用し、無重力環境である宇宙空間での微粒子の生成条件を理解し、宇宙で最初に生成する物質を明らかにすることを目指します。

今回の実験により、宇宙での物質進化のストーリーの記述や、次世代赤外線天文衛星 SPICA による宇宙史の中での物質進化の解明に生かすことが可能です。同時に星間物質進化

のスタート地点である、晩期型巨星で生成する宇宙ダストの核生成過程が解明されます。宇宙ダストの形成を伴う様々な天体現象の観測データと組み合わせて、恒星風の化学組成や密度、温度環境など、様々な物理・化学パラメータを厳密に決定できるようになり、当該分野に革新的な寄与を与えることが可能です。また、宇宙ダストの核生成理論に対する実験検証ができ、宇宙における物質進化の理解において、最初のマイルストーンとしての役割を担うことが期待されます。

（低温科学研究所）

ロケット打上げの詳細

打上げロケット：S-520-30号機

打上げ日時：平成27年9月11日（金）20時00分00秒

打上げ場所：内之浦宇宙空間観測所（鹿児島県肝属郡肝付町）

最高到達高度：312km（打上げ283秒後）

着水時刻：打上げ550秒後

参加研究機関：北海道大学、東京大学、東海大学、JAXA



実験に使用した観測ロケット（S-520-30号機）



内之浦宇宙空間観測所から発射されたS-520-30号機

北海道大学病院で災害医療訓練， CBRNE災害対策訓練を実施

北海道大学病院では、9月9日（水）、医師や看護師、学生ら約300人が参加し、広域大規模災害の発生を想定した第12回北海道大学病院災害医療訓練を実施しました。

訓練は、札幌近郊で大地震が発生し、エレベーターや一部医療機能が停止した状況で傷病者を受け入れなければならない、という想定で行われました。

まず、傷病者の緊急度や重傷度によって治療や後方搬送の優先順位を決めるトリアージセンターを外来玄関前と外来ホールに設置し、あらかじめ設定した被災状況に応じたメイクを施された90名ほどの模擬被災者を、傷病者の緊急度や重症度による治療や後方搬送の優先順位でトリアージタグと呼ばれるタグ（緑、黄、赤、黒の4色）を用いて識別し、それぞれの対応センターへ振り分けます。赤タグがつけられた重症者はアメニティホールに搬送

され、担当職員らは声かけをしながら対応の流れを確認しました。DMAT（Disaster Medical Assistance Team）と呼ばれる災害時派遣医療チームも処置治療センター（赤）に配置され、処置治療センター（赤）担当の医師・看護師等と連携を行いました。また、処置治療センター以外にも、医療機器や模擬被災者の搬送、ボランティアの受け入れ、被災者の安否確認対応などの訓練も行われました。

約1時間にわたる訓練は、寶金清博病院長による訓練終了の宣言で幕を閉じました。

また、9月11日（金）には、放射性物質、生化学物質などによる災害やテロの発生を想定したCBRNE（Chemical, Biological, Radiological, Nuclear, Explosives）災害対策訓練も実施されました。

訓練には約50人が参加し、脱衣テン

ト、除染 TENT 等を設置し、防護服を着用した医師・看護師が、傷病者の到着から汚染の除去、病院内へ搬送するまでの手順を確認しました。

このような、大がかりな訓練を定期的に行うことにより、職員の危機意識の向上と、実際の災害直面時に適切な対応が可能となることが期待されています。

（北海道大学病院）



処置治療センター（赤）の様子（災害医療訓練）



講評する寶金病院長（災害医療訓練）



除染テント内の様子（CBRNE災害対策訓練）



除染後トリアージの様子（CBRNE災害対策訓練）

北海道大学病院で平成27年度地域連携懇話会を開催

北海道大学病院は9月11日（金）、KKRホテル札幌「鳳凰」において、平成27年度北海道大学病院地域連携懇話会を開催しました。本懇話会は、本院と関連の深い地域医療機関の関係者に本院の紹介と報告を目的として企画されました。

はじめに、寶金清博病院長の挨拶の後、渥美達也地域医療連携福祉センター長から、同センターにおける地域連携の取組について詳細な紹介がありました。引き続き、清水伸一陽子線治療センター副センター長から、先進医療が行われている「陽子線治療センターの紹介」、北川善政口腔内科長から「歯科診療センターの紹介」、中川伸精神科神経科准教授から「もの忘れ

検査入院の紹介」、丸山 覚泌尿器科助教から「泌尿器科におけるロボット支援手術」について、個々に詳細な紹介がありました。最後に特別講演として、北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課長である大竹雄二氏から「北海道の地域医療について」の演題で、医療制度の変遷と地域医療の機能分化の必要性について、講演がありました。

当日は76名（学外42名・学内34名）の参加者があり、講演後に質疑応答が行われ、盛況のうちに本懇話会を終了しました。

（北海道大学病院）



寶金病院長の挨拶



懇話会の風景

附属図書館北図書館で札幌市立高等学校「職場体験学習」の生徒を受け入れ

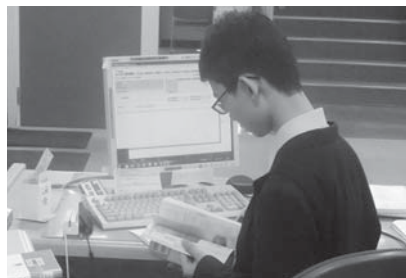
附属図書館北図書館では、札幌市教育委員会からの依頼に基づき、8月26日（水）に札幌清田高等学校2年生2名、9月16日（水）に札幌旭丘高等学校1年生2名及び札幌新川高等学校2年生4名を「職場体験学習」として受け入れました。当日は、最初にオリエンテーションを行い、附属図書館の概要や北図書館の課題等を説明し、その後実際に業務を体験してもらいました。

職場体験ではカウンターでの貸出・返却業務をはじめ、図書の配架、蔵書点検、図書へのバーコードラベル貼り、図書に透明なフィルムカバーを貼るブッカー掛けなど、多様な業務を経験してもらいました。また、オリエンテーションで説明した北図書館の課題（飲食マナーを守ってもらう方法など）について、対応策をプレゼンテーションしてもらいました。ここでは、高校生ならではの視点から、実用的な意見や奇抜なアイデア等が飛び出し、職員らの刺激にもなりました。

参加した高校生からは「図書館司書の仕事は図書の貸出や返却だけでなく、たくさんある仕事の一部だということがわかった」「ブッカー掛けが一

番難しかったが、その分やりがいがあった」などの感想が寄せられました。

（附属図書館）



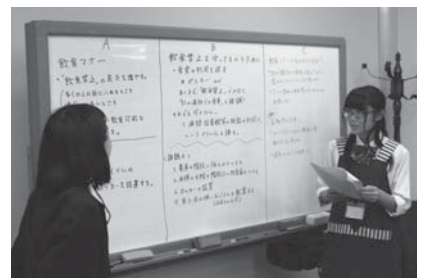
返却業務を行う札幌旭丘高校生



図書のラベル貼りを行う札幌旭丘高校生と札幌新川高校生



ブッカー掛けの説明を聞く札幌清田高校生



課題への対応策を発表する札幌新川高校生

附属図書館で北海道大学インターンシップ・図書館実習を実施

附属図書館では例年北海道大学インターンシップ及び図書館実習を実施しています。今年度は、9月7日（月）から15日（火）までの土日を除く7日間の日程で実施し、本学からインターンシップ実習生1名、藤女子大学、北海道武蔵女子短期大学から図書館実習生各3名、計7名の実習生を受け入れました。

本学のインターンシップは、学生の職業意識の育成・向上に寄与すること及び本学に対する理解を深めることを目的とした就業体験です。図書館では、実習生に業務を体験してもらうことで、図書館のことをより深く理解し、その後の学生生活において図書館

を有効に活用してもらえ、また、学生のニーズを把握することを目指して毎年積極的に受け入れています。一方、他大学からの図書館実習生の受入は、学外連携及び社会貢献の役割を果たすことを目的として実施しています。

実習生は、オリエンテーションに続いて、図書・雑誌の受入業務、電子ジャーナル等の管理業務、目録業務、他大学との文献複写・図書の貸借等の相互利用業務、展示企画作成、カウンター業務、蔵書点検、機関リポジトリ（HUSCAP）業務、レファレンス業務、情報リテラシー業務など、短期間ながら図書館業務のほぼ全てを体験し

ました。

最終日に行われた実習生によるプレゼンテーションでは、「カウンター業務以外の業務の重要性を理解できた」「普段見ることのできない多様な業務を体験できた」等の感想や「館内案内図を充実して初めての人でも利用しやすくしてほしい」といった図書館への提言を発表してもらいました。複数の大学による合同の実習は、実習生同士良い刺激となったようです。今年度も学生と附属図書館双方に大変有意義な実習となりました。

（附属図書館）



自動化書庫の説明を受ける実習生



貴重資料の説明を熱心に聴く実習生



実習生によるプレゼンテーションの様子

■お知らせ

医療費通知事業の実施

国家公務員共済組合法附則第14条の3第1項に基づく国家公務員共済組合連合会の共同事業の一つとして、昭和56年度から実施している医療費の通知事業を今年も行うことになりました。

この通知事業は、組合員に対し医療費の額等を通知することにより、組合員等に健康に対する認識を深めていただき、ひいては、短期給付事業の健全な運営に資することを目的として、特定月における支払分について通知するものです。

実施内容は次のとおりです。

1 通知の対象

組合員及びその被扶養者に係る平成27年6月診療分の診療報酬明細書（レセプト）による医療費の額等です。

なお、共済組合の直営医療機関並びに契約医療機関に係る請求分、任意継続組合員等郵送が必要な請求分、特定の診療部門に係る請求分は通知の対象から除外されます。

2 通知の内容

通知の内容は、受診者名、診療年月、診療日数、入院・通院・歯科・薬局の別、医療費の額及び病院名です。

3 通知票の組合員への配付

通知票の組合員への配付は、平成27年11月末日までに各部局等の共済事務担当から行われる予定です。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

博士学位記授与

本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士91人、及び本学に学位論文を提出して、その審査、試験等に合格した論文博士10人に対する学位記授与式を、9月25日（金）午前10時から学術交流会館第一会議室において挙行了しました。

式では山口佳三総長から出席者全員に学位記が手渡され、最後は北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。9月の被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)



学位記授与の様子

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名		
	氏名				
博士（文学）	キム 金	ヨン 榮	ミ 美	植民地朝鮮における「娯楽問題」に関する研究 主査：教授 権 錫永	
	ジン 斬	リー 麗	ファン 芳	日本アニメーションの表現性に関する研究 - 東アジアにおける受容を交えて - 主査：教授 応 雄	
	リ 李		ヨウ 楊	非協力者への罰と向社会性の関係についての実験的検討 主査：教授 結城 雅樹	
	わ 和	だ 田	たか 貴	ひろ 弘	地域の希少種を対象とした環境教育の再構築-北海道におけるオオムラサキの保護活動を事例に- 主査：教授 池田 透
博士（法学）	せ 瀬	がわ 川	こう 行	た 太	犯罪論における同時存在原則について 主査：教授 城下 裕二
博士（医学）	いな 稲	ふく 福	き 沙	おり 織	糖尿病網膜症におけるN型糖鎖プロファイルの変化 主査：教授 佐々木 秀直
	くら 蔵	や 谷	だい 大	すけ 輔	NF-κB阻害剤DHMEQはHMGB1を抑制することによりマウス睪嚢移植後早期グラフト傷害を抑制する 主査：教授 坂本 直哉
	たけ 武	うち 内	しん 慎	たろう 太郎	Studies on the differentiation of myeloid cells under the chemotherapy-treated human pancreatic cancer microenvironment (ヒト睪嚢化学療法下の微小環境におけるミエロイド細胞の分化に関する研究) 主査：教授 武富 紹信
	チョウ 趙	モン 文	セイ 静		Gait speed, daily walking and all-cause mortality in the younger-elderly Japanese: a cohort study (日本の前期高齢者における歩行速度、日常的な歩行習慣とその後の死亡：コホート研究から) 主査：教授 荒戸 照世
	なか 中	やま 山	とも 智	ひで 英	A study of the surgical treatment for intrahepatic cholangiocarcinoma focusing on lymph node metastasis (肝内胆管癌におけるリンパ節転移と手術治療に関する研究) 主査：准教授 神山 俊哉

博士 (医学)	ばん ない あきら 坂 内 聖	長時間労働と健康に関する疫学研究 主査：教授 大滝 純司
	ふじ よし まさ と 藤 好 真 人	マウス肝移植モデルにおける機械灌流保存法およびsiRNAを用いた移植前グラフト治療法に関する研究 主査：教授 廣瀬 哲郎
	ます だ やす し 栴 田 安 志	TRIM29によるDNA修復および転写の制御 主査：教授 大場 雄介
	みず しま わたる 水 島 航	Functional analysis of a novel cardiac-specific protein RING finger protein 207 (新規心筋特異的タンパク質RING finger protein207の機能解析) 主査：教授 三輪 聡一
	よし だ ただし 吉 田 雅	同種異系豚島移植におけるc-Fos/Activator protein-1阻害による免疫抑制効果に関する研究 主査：教授 坂本 直哉
博士 (歯学)	ほし の めぐみ 星 野 恵	障害者に対する歯科診療中の心拍変動解析を用いた自律神経機能の評価 主査：教授 八若 保孝
博士 (獣医学)	シリポ ン Siriporn コングソイ Kongsoi	Studies on <i>Salmonella</i> Typhimurium DNA gyrase and the impact of <i>gyrA</i> mutations to quinolone susceptibility (<i>Salmonella</i> Typhimuriumが有するDNAジャイレースの性状とAサブユニット遺伝子上の変異のキノロン剤感受性への影響) 主査：教授 鈴木 定彦
	た むら とも かず 田 村 友 和	Studies on the molecular basis of pathogenicity of classical swine fever virus (豚コレラウイルスの病原性の分子基盤に関する研究) 主査：教授 迫田 義博
	ル チ ラ ダ Ruchirada チャンクワンイエン CHANGKWANYEUN	Studies on DNA gyrases of <i>Campylobacter jejuni</i> as the target of quinolones (キノロン剤の標的としての <i>Campylobacter jejuni</i> DNAジャイレースの性状) 主査：教授 鈴木 定彦
	サラド Sarad パウデル PAUDEL	Studies on genotype and diagnosis of tuberculosis in Asian elephants (<i>Elephas maximus</i>) of Nepal (ネパールのアジアゾウにおける結核の遺伝子型別および診断に関する研究) 主査：教授 坪田 敏男
	チュクノンソ Chukwunonso オンエマエチ Onyemaechi ンゼル Nzelu	Molecular epidemiological study of <i>Leishmania</i> and sand fly vectors (リーシュマニアおよび媒介昆虫サンショウバエに関する分子疫学的研究) 主査：教授 片倉 賢
博士 (情報科学)	ガン ショウ リョウ 耿 暁 亮	Studies on Depth-First Mining Algorithms for Maximal Flock Patterns from Large Trajectory Data (大規模軌跡データからの極大群パターン発見のための深さ優先アルゴリズムに関する研究) 主査：教授 有村 博紀
	こう じゃく さだ もり 幸 若 完 壮	A Study on Finding Core Communities in Social Networks (ソーシャルネットワークにおける核コミュニティの発見に関する研究) 主査：教授 工藤 峰一
	ジュリア ジェレミー JULIA JEREMIE アンリ HENRI ラファエル RAPHAEL	A Framework for Proximity-Based Federation of Smart Objects (スマート・オブジェクトの近接フェデレーションのためのフレームワーク) 主査：教授 湊 真一
	ショウ ギョク ケイ 鐘 玉 馨	Plasmon-Induced Water Splitting under Visible Light Irradiation using Gold Nanostructured Strontium Titanate Single Crystal Substrate (金ナノ構造担持チタン酸ストロンチウムを用いた可視光照射下でのプラズモン誘起水分解) 主査：教授 三澤 弘明
	た なか ひろ かず 田 中 宏 和	A Study on High Reliable Wireless Video Transmission Scheme (無線ビデオ伝送方式における高信頼性に関する研究) 主査：教授 長谷山 美紀
	マイケル MICHAEL ペンコフ PENKOV	Estimating Video Authenticity via the Analysis of Visual Quality and Video Structure (画質と映像構造の解析に基づく映像信頼性の推定に関する研究) 主査：教授 長谷山 美紀
	わ だ なお ふみ 和 田 直 史	ベイズ理論に基づく画像・映像高品質化のための符号化歪除去に関する研究 主査：教授 長谷山 美紀

博士 (情報科学)	伊藤 誠也 いとう まさや	映像解析における有効特徴選択によるロバスト画像照合の研究 主査：教授 金子 俊一
博士 (工学)	唐 一展 トウ イチテン	Study of a High-Precision Analysis Method about EMI Noise for Motor Drive Systems in Inverter Air Conditioners (インバータエアコンにおけるモータ駆動システムの高精度EMI解析技術に関する研究) 主査：教授 小笠原 悟司
博士 (水産科学)	武田 忠明 たけだ ただあき	養殖環境の変動によるホタテガイのへい死予測に関する研究 主査：特任教授 高橋 是太郎
	張 曦 チヨウ ゴ	Studies on the properties of sturgeon collagen as potential biomaterials (チョウザメコラーゲンに関する研究 — 生物材料への応用の可能性) 主査：教授 足立 伸次
	蓮平 裕次 むしろ びら ゆうじ	Studies on Mechanisms of Production and Accumulation of Dual Vitellogenins in Salmonid Species (サケ科魚類の2型ビテロジェニン合成および蓄積機構に関する研究) 主査：教授 足立 伸次
博士 (環境科学)	森 佳祐 もり けいすけ	Evaluation of the effect of snow cover on the winter urban heat island in Sapporo city, Japan (積雪被覆が札幌市の冬季ヒートアイランドに与える影響の評価) 主査：准教授 佐藤 友徳
	刘 洁 リュウ ジェイ	Studies on changes of vegetation cover of pasturelands in the eastern Alai Valley, Kyrgyzstan (キルギスタン, アライ谷東部における放牧地の植生被覆変化に関する研究) 主査：教授 渡邊 悌二
	サティア チャンドラ Satya Candra ウイバワ サクティ Wibawa Sakti	Development of magnetic separation using modified magnetic chitosan for removal of pollutants in solution (溶液中の汚染物質除去のための修飾マグネティックキトサンを用いた磁性分離法の開発) 主査：教授 田中 俊逸
	刘 闾 リュウ かん	A study of biological significance and toxicity of short-chain nonylphenol ethoxylates (短鎖ノニルフェノールエトキシレートの生物学的意義および毒性に関する研究) 主査：教授 田中 俊逸
	かな 那 直也 かな な なおや	海氷がオホーツク海の鉄供給及び植物プランクトンの増殖に果たす役割の解明 主査：准教授 西岡 純
	やま ぐち ひろし 山 口 浩 志	北海道日本海海域におけるホッコクアカエビの資源評価と資源管理方策に関する研究 主査：教授 宮下 和士
	ヴェナス エムプロン Venus Empron レオパルダス Leopardas	Variation in community structure of seagrass macrofauna across multiple spatial scales (多重空間スケールに沿った海草藻場マクロファウナの群集構造の変異) 主査：教授 仲岡 雅裕
博士 (理学)	エリック ジグーレ Eric Giguère	Investigation of Gauge-Gravity duality via 2D $N=(8,8)$ Super-Yang-Mills lattice simulations (2D $N=(8,8)$ Super-Yang-Mills理論の格子シミュレーションによるゲージ重力双対性の研究) 主査：准教授 中山 隆一
	なか お ひかる 中 尾 光	Development of the Nayoro Optical Camera and Spectrograph (NaCS) and Spectral Monitoring of the Double-peaked Emission Line of Active Galactic Nuclei (可視撮像分光装置NaCSの開発と活動銀河核のダブルピーク輝線の分光モニター観測) 主査：准教授 徂徠 和夫
	ベルガルクビカス Bergal-Kuvikas オリガ Olga	Geochemical studies of volcanic rocks from the northern part of Kuril-Kamchatka arc: Tectonic and structural constraints on the origin and evolution of arc magma (クリル・カムチャッカ弧北部の火山岩に関する地球化学的研究：深部構造が島弧マグマの起源および進化に与える影響について) 主査：教授 中川 光弘
	ホセイン エムディ HOSSAIN MD. アッシュク Ashique	Molecular and isotopic composition showing source and in-reservoir phase fractionation of crude oils and condensates in the Surma basin, NE Bangladesh (分子・同位体組成が示す北東バングラデシュ, スルマ堆積盆地のオイル・コンデンサートの起源と貯留層内相分別作用) 主査：教授 鈴木 德行

<p>ノングラック ジャイトー Nongluck Jaito</p>	<p>Function, structure, and application of microbial enzymes related to CE-MGP pathway (微生物由来CE-MGP経路関連酵素の機能, 構造ならびに応用に関する研究) 主査:教授 森 春英</p>
<p>アブドゥル ラティフ ABDUL LATIF ベニンノ BIN NOH</p>	<p>Analytical study on the peptide sequence-dependent regulatory upstream open reading frame of a tomato homologue of the <i>Arabidopsis ANAC096</i> gene (シロイヌナズナANAC096遺伝子のトマトホモログの発現をペプチド配列依存的に制御する上流ORFの研究) 主査:准教授 尾之内 均</p>
<p>あべ けい ま 阿部 圭馬</p>	<p>エンワサビ (<i>Cardamine fauriei</i> Maxim.) の栽培化の基礎となる辛味および抗酸化成分の同定ならびに含量に及ぼすLED 光波長の効果 主査:准教授 鈴木 卓</p>
<p>いけ だ さち こ 池田 幸子</p>	<p>双子葉植物に雪腐病を起こす <i>Typhula</i> 属菌の分類学および生態学的研究 主査:教授 近藤 則夫</p>
<p>オウ 汪 シャ リョウ 社 亮</p>	<p>UDP-D-galactose-dependent organization of the <i>trans</i>-Golgi network & Mechanisms for polar localization of boric acid channels in <i>Arabidopsis thaliana</i> (シロイヌナズナにおけるUDP-D-ガラクトースに依存したトランスゴルジ網の構造維持およびホウ酸チャネルの細胞膜内偏在機構) 主査:准教授 尾之内 均</p>
<p>くし だ あつ ひこ 串田 篤彦</p>	<p>植物寄生性線虫の診断技術に関する研究 主査:教授 近藤 則夫</p>
<p>ジャン 張 セン ジン 張 聖 珍</p>	<p>ダイズの硬実性に関与する分子機構と進化機構に関する研究 主査:教授 阿部 純</p>
<p>イネス セプティ Ines Septi アルシニングティアス Arsiningtyas</p>	<p>Search for α-glucosidase inhibitors from Indonesian indigenous plants (インドネシア産植物からの α-グルコシダーゼ阻害物質の探索研究) 主査:教授 川端 潤</p>
<p>ニエ 羨 イェン シャ 彦 霞</p>	<p>Physiological and genetic traits of the N₂O-emitting <i>Proteobacteria</i> isolated from latent hot spots for N₂O emission, and their response to environmental factors including plant polyphenols (潜在的N₂O放出ホットスポットから分離したN₂O放出能をもつグラム陰性細菌の細菌生理学的および分子遺伝学的性状と, 植物ポリフェノールを含めた環境諸因子に対するそれら分離細菌株の応答) 主査:教授 橋床 泰之</p>
<p>モ ハン マド MOHAMMAD ナズル-ルイスラム NAZRUL ISLAM フイヤン BHUIYAN</p>	<p>Growth factors for uncultured bacteria and structural requirements of quercetin for inhibiting advanced glycation end products (AGEs) formation (難培養バクテリアに対する増殖因子並びに糖化反応阻害物質としてのケルセチンの構造要求性) 主査:特任教授 生方 信</p>
<p>カ 何 キン 欣</p>	<p>Evaluation of the hydrological environment of peatland by using Peatland Tank Model (泥炭地タンクモデルを用いた泥炭地水文環境の評価に関する研究) 主査:教授 井上 京</p>
<p>リ 李 キョウ 強</p>	<p>Elucidation of xylan function in lignin formation using artificial wood cell wall (人工木材細胞壁を用いたリグニン形成におけるキシランの機能解明) 主査:教授 浦木 康光</p>
<p>リ 李 シ 瑤</p>	<p>Modeling soil CO₂ and N₂O emissions and estimating carbon budget in agro-ecosystem at regional scale (土壌からのCO₂およびN₂O排出モデルの構築と地域レベルでの農業生態系炭素収支の見積もり) 主査:教授 波多野 隆介</p>
<p>リ 李 メン ジェ 夢 婕</p>	<p>Factors controlling episodic soil CO₂ and N₂O emissions from managed grassland and corn field in southern Hokkaido, Japan (北海道南部の草地, 飼料畑土壌からの突発的CO₂ およびN₂O排出の制御因子) 主査:教授 波多野 隆介</p>

博士 (農学)

博士 (農学)	リミ LIN アトフリテディ ATFRITEDY	Effect of manure application on carbon budget in managed grassland and corn field in southern Hokkaido, Japan (北海道南部の草地と飼料畑における炭素収支への堆肥施与効果) 主査:教授 波多野 隆介
博士 (生命科学)	ソロモン SOLOMON タベジエギザワ TEBEJE GIZAW	Comprehensive Glycomics for the Discovery of New Biomarkers in Neurodegenerative Diseases (神経疾患新バイオマーカーの探索のための総合的グライコミクス) 主査:教授 西村 紳一郎
	とみさわ 富澤 さとし 聡	Studies on the overexpression of antimicrobial peptides in <i>E. coli</i> (大腸菌を用いた抗菌ペプチドの大量生産に関する研究) 主査:准教授 相沢 智康
	リ 李 シェ 旭 ファン 峰	Structure and Properties of Physical Hydrogels from Polymer Adsorption on Bilayer Membranes (二分子膜へのポリマー吸着による物理ハイドロゲルの構造と物性) 主査:教授 龔 劍萍
	ロジャー ROGER サルバシオン SALVACION タン TAN	Design of Quantum Dot-Based High Performance Nanoparticle Platform for Nanoparticle-Based Drug Delivery (NDD) system (ナノ微粒子による薬物送達システム - 量子ドット型高性能ナノ微粒子プラットフォームの設計) 主査:教授 西村 紳一郎
博士 (国際広報メディア)	カク 郭 ウ 羽	Who Benefits from Social Media? The Role of Social Media Functions and Personality Traits in Predicting Social Capital and Psychological Wellbeing (誰がソーシャル・メディアの恩恵を被るのか? 社会関係資本と精神衛生を規定するソーシャル・メディア機能と性格特性の役割) 主査:教授 伊藤 直哉
	リ 李 イ 禰 イ 惟	A Social-cognitive Model of Environmental Risk Information Seeking in China: Toward A Better Public-oriented Risk Communication (中国における環境リスクの社会認知的情報探索モデル - 市民全体のリスク・コミュニケーションに向けて -) 主査:教授 伊藤 直哉
博士 (観光学)	オウ 王 キン 金 イ 偉	自然災害地における「負の遺産」の観光マネジメントに関する研究 - 中国四川省「北川地震遺跡区」を事例として - 主査:教授 山村 高淑
博士 (保健科学)	よし 吉 い 井 ゆう 勇 じ 治	放射線粒子輸送シミュレーションによるDNA二本鎖切断数の推定 主査:教授 小笠原 克彦
博士 (工学)	ジャカ Fajar ファジヤル Fajjar ファトリアンシヤ Fatriansyah	Non-Equilibrium Steady State Response and Fluctuations of Sheared Nematic Liquid Crystals (せん断を印加したネマチック液晶の非平衡定常応答とゆらぎ) 主査:教授 折原 宏
	ル 魯 シュー 旭	The Functionalization of Surface Modified Silicon (表面修飾したシリコンの機能化) 主査:教授 米澤 徹
	いち 市 かわ 川 やすし 靖	固体高分子型燃料電池のアノード燃料ガス供給に関する非定常物質輸送解析 主査:教授 大島 伸行
	ほそ 細 や 矢 たか 隆 ふみ 史	くさび型回位の有限要素モデルと弾性不適合問題への適用 主査:准教授 加藤 博之
	すず 鈴木 き 木 はや 逸 と 人	Micro-MRIを用いたMRE (Magnetic Resonance Elastography) による動的粘弾性計測 主査:教授 梶原 逸朗
	ラワンカル Ravankar Ankit アンキット	Probabilistic Approaches and Algorithms for Indoor Robot Mapping in Structured Environments (確率論的手法とアルゴリズムに基づく構造化された環境における屋内ロボットの地図構築) 主査:教授 小林 幸徳

博士 (工学)	<p>アハメッド モ ハ メ ド Ahmed Mohamed アブデルラゼク Abdelrazek イブラヒム Ibrahim</p>	<p>Modeling and Analysis of Geo-disaster Problems Using the SPH Method (SPH法を用いた自然災害のモデリングと数値解析)</p> <p>主査：准教授 木村 一郎</p>
	<p>イドリース ザファー Idrees Zafar</p>	<p>Corrosion Resistance of Steel Reinforcement in Fly Ash Concrete under Chloride Penetration (塩分浸透を受けるフライアッシュコンクリートの鉄筋腐食抵抗)</p> <p>主査：教授 杉山 隆文</p>
	<p>インタンス プ ラ バ Intan Supraba</p>	<p>Uncertainty of Runoff Associated With Uncertainties of Water Holding Capacity and Rainfall Distribution in Mountainous Catchments (山地流域における保水能と降水分布の不確実性がもたらす流出量の不確実性)</p> <p>主査：准教授 山田 朋人</p>
	<p>さ とう じん 佐 藤 仁</p>	<p>背後小段部を有する防波堤構造物における藻場造成回復手法に関する研究</p> <p>主査：教授 山下 俊彦</p>
	<p>ゴン フー ユエン 弓 扶 元</p>	<p>Modeling and Simulation of Frost Damage of Concrete and its Combined Effect with Fatigue Loadings (コンクリートの凍害および凍害-疲労複合劣化モデルとシミュレーション)</p> <p>主査：教授 上田 多門</p>
	<p>ジャスティン シュレスタ Justin Shrestha</p>	<p>Investigation on long-term durability of FRP-concrete bond interfaces under moisture conditions (湿潤環境下におけるFRPとコンクリートの付着界面の長期耐久性に関する研究)</p> <p>主査：教授 上田 多門</p>
	<p>たか だ ひろし 高 田 寛</p>	<p>ネットワークDEAによる都市の集約化に向けた都市構造評価手法に関する研究</p> <p>主査：准教授 岸 邦宏</p>
	<p>ディアワシス Diah Wasis ウランダリ Wulandari</p>	<p>Improvement of Living Environment and Management of Kost Private Rental Housing in Urban Settlement of Indonesia (インドネシアにおけるシェア型民間賃貸住宅Kostの居住環境とマネジメントの改善に関する研究)</p> <p>主査：教授 森 傑</p>
	<p>ラスナヤケ RATHNAYAKE ムディヤンセラゲ MUDIYANSELAGE ラシタ LASHITHA ディネッシュ DINESH ラスナヤケ RATHNAYAKE</p>	<p>Nitrous oxide and nitric oxide production in partial nitrification and anaerobic ammonium oxidation granular sludge (部分硝化および嫌気性アンモニア酸化グラニュール汚泥中における一酸化二窒素および一酸化窒素の生成)</p> <p>主査：准教授 佐藤 久</p>
	<p>アンジュラブ デイカ Anjula Buddhika ナヨミ Nayomi ダッサナヤカ Dassanayake</p>	<p>Effective Stress Coefficient of Rocks for Peak and Residual Strengths (ピークおよび残留強度における岩石の有効応力係数)</p> <p>主査：教授 藤井 義明</p>
<p>ナジブ Najib</p>	<p>Elastic deformation of rock slopes due to excavation in open pit mines (掘削に伴う露天掘り鉱山の残壁の弾性変形の解析)</p> <p>主査：准教授 児玉 淳一</p>	
<p>ホンアルン Houngaloune センパシス Sengpasith</p>	<p>On-site synthesis of schwertmannite and its application for arsenic immobilization at copper mines (銅鉱山におけるシュベルトマナイトのオンサイト合成とそのヒ素固定への利用)</p> <p>主査：教授 廣吉 直樹</p>	
博士 (総合化学)	<p>シャ 伊 謝 維</p>	<p>Synthesis, Characterization and Materials Design of Molecule-Incorporated Carbon-Based Materials (分子状構造を含んだ炭素系材料の合成, 評価および物質設計に関する研究)</p> <p>主査：特任教授 吉川 信一</p>
	<p>チウ チュン テン 邱 春 天</p>	<p>Synthesis of Crystalline Mo-V(-W-Cu)-O Complex Oxides and Their Application to Selective Oxidation of Acrolein to Acrylic Acid (結晶性Mo-V(-W-Cu)-O複合酸化物の合成とアクロレインからアクリル酸への選択酸化への応用)</p> <p>主査：教授 向井 紳</p>
	<p>チャウドハリ CHAUDHARI チャンドン CHANDAN サブハッシュ SUBHASH</p>	<p>Heterogeneous Pt Catalysts for Direct Synthesis of Chemicals from Alcohols by Borrowing-Hydrogen and Acceptorless Dehydrogenation Reactions (不均一系白金触媒による水素移動・脱水素反応を利用したアルコールからの直接的化学品合成)</p> <p>主査：教授 増田 隆夫</p>

博士 (理学)	メン 孟	ジャン 憲	グアン 光	Effect of Reaction Environment on Photo-driven Catalytic Properties (反応環境場の制御による光触媒特性への影響に関する研究) 主査：教授 村越 敬	
	ユアン 袁	ヤ 亞	フア 華	High-Pressure Synthesis, Crystal Structures, and Magnetic Properties of Perovskite-Related Os and Ir Oxides (ペロブスカイト関連オスミウムおよびイリジウム酸化物の高圧合成と結晶構造と磁気的性質) 主査：教授 武田 定	
博士 (工学)	いし 石	かわ 川	きと 理	し 史	Synthesis of Microporous Crystalline Mo_3VO_x Catalysts and Their Structure-Activity Relationship in Selective Oxidations (マイクロ細孔を有する結晶性 Mo_3VO_x 複合酸化物触媒の合成および結晶構造と選択酸化触媒活性の関連) 主査：教授 増田 隆夫

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者			博士論文名	
	氏名				
博士 (医学)	かん 神	だ 田	あつ 敦	ひろ 宏	Biological function analysis of ATP6AP2/(pro)renin receptor in the retina (ATP6AP2/ (プロ) レニン受容体の網膜における生物学的機能解析) 主査：教授 佐邊 壽孝
	ひら 平	た 田	のり 徳	ゆき 幸	Akt活性抑制ペプチド“ <i>Akt-in</i> ”を用いたインフルエンザウイルス感染の病態修飾効果 主査：教授 村上 正晃
博士 (獣医学)	かね 金	ひら 平	かつ 克	し 史	Molecular epidemiology and pathogenicity of animal influenza viruses isolated in Japan (日本で分離された動物インフルエンザウイルスの分子疫学と病原性に関する研究) 主査：教授 迫田 義博
博士 (環境科学)	かづ 計	もり 盛	まさ 正	ひろ 博	Ocean surface emissivity modeling in microwave radiance assimilation for numerical weather prediction (数値天気予報のためのマイクロ波放射輝度同化における海面射出率のモデル化) 主査：教授 江淵 直人
	こ 兒	だま 玉	けん 健	さく 作	Electrochemical interface in fuel cell reactions (燃料電池反応中の電気化学界面) 主査：特任教授 大澤 雅俊
博士 (農学)	しな 品	だ 田	ひろ 博	し 史	北海道新旧主要イネ品種・系統における遺伝的多様性と耐病・耐冷性に関する遺伝因子の解明 主査：准教授 久保 友彦
	いし 石	かわ 川	し 志	ほ 保	電力系統に対応したバイオガス発電施設併設型畜舎における電力需給の平準化に関する研究 主査：教授 岩淵 和則
	こん 近	どう 藤	まさ 雅	ゆき 征	Effects of the model-data integration on the carbon cycle simulation of terrestrial ecosystems (陸域生態系炭素循環におけるモデル-データ融合の効果) 主査：教授 平野 高司
	はやし 林	まさ 真	と 智		衛星リモートセンシングを利用した樹高および森林バイオマスの広域評価に関する研究 主査：教授 平野 高司
博士 (教育学)	そう 宗	の 野	ふみ 文	とし 俊	学校体育におけるボールゲームの指導理論に関する研究-フラッグフットボールを中心にして- 主査：特任教授 西尾 達雄

■レクリエーション

平成27年度 第45回札幌社会人サッカーリーグに出場

4月26日（日）～8月23日（日）の日程で平成27年度 第45回札幌社会人サッカーリーグに出場しました。

最上位のSリーグから新規加入チームによるライラックリーグまで、全12部・114チームで構成されるリーグ戦で、教職員サッカークラブはBリーグ4部に所属し、5勝3敗1分の4位で全日程を終えました。対戦成績は以下のとおりです。

(教職員サッカークラブ)

4月26日	教職員サッカークラブ	2 - 1	a bond football club
5月17日	教職員サッカークラブ	3 - 0	A.C.Brave
6月7日	教職員サッカークラブ	4 - 1	北星四十雀
6月21日	教職員サッカークラブ	0 - 1	Network
7月5日	教職員サッカークラブ	2 - 0	北ガスFC
7月19日	教職員サッカークラブ	3 - 0	FORZA`K
8月2日	教職員サッカークラブ	1 - 2	AFCアヤックス
8月9日	教職員サッカークラブ	0 - 0	FC大将
8月23日	教職員サッカークラブ	1 - 4	FC XEROX



平成27年度 第45回札幌社会人サッカーリーグ

平成27年度学内教職員フットサル大会の開催

9月1日（火）から9月15日（火）にかけて学内教職員フットサル大会を第2体育館にて開催しました。学内より21チームが参加し、連日熱戦が繰り広げられました。

決勝戦では、1点を争う接戦の末、理学部が勝利し、優勝しました。対戦結果は以下のとおりです。

(教職員サッカークラブ)



試合開始時間
①17:15～
②17:40～
③18:05～



試合風景

★優勝★
理学部



優勝チーム 理学部

教職員卓球大会の開催 一団体戦・ペア・個人戦一

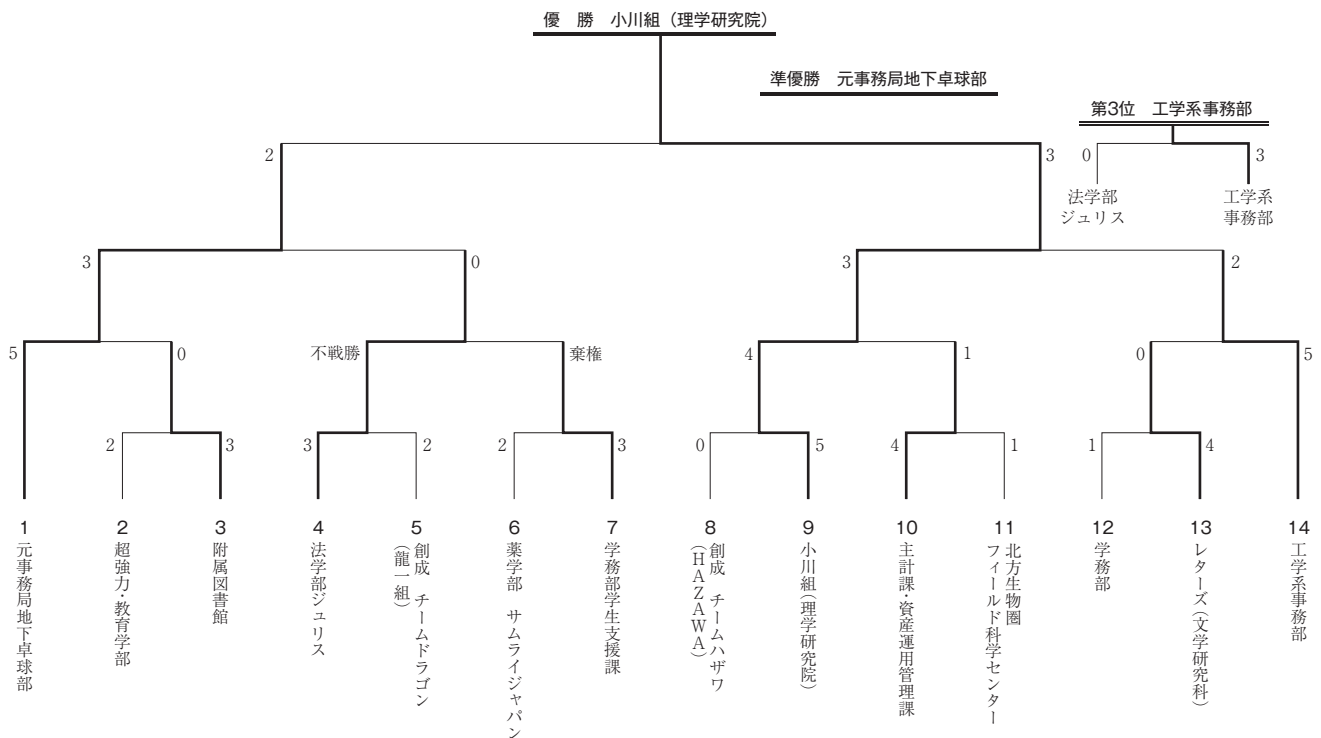
8月31日（月）から9月9日（水）にかけて、学内教職員卓球大会を小体育館で開催しました。団体戦に14チーム135名、ペア2クラスに14ペア、個人戦2クラスに18名が参加し、声援のなか熱戦が繰り広げられました。

なお、対戦結果は以下のとおりです。

（職員卓球部）

平成27年度 北大教職員卓球大会（団体戦）

8月31日（月）～9月3日（木）



個人戦：9月4日（金）～8日（火）

クラス	優 勝	準 優 勝	第 3 位
一般A	中鉢 健太 (工)	谷口 雄郎 (資産運用)	小林 広和 (触媒)
一般B	伊藤 秀臣 (理)	高橋 英嗣 (人事)	小田桐 誠 (工)

ペア：9月8日（火）・9日（水）

クラス	優 勝	準 優 勝	第 3 位
フリー	越前・細木 (主計)	小川・木村 (理)	加福・小笠原 (入試)
超ビギナー	上田・増田 (教育推進&学務企画)	坂巻・姜 (法)	



団体戦優勝 小川組（理学研究院）



超ビギナーペア優勝 上田・増田ペア

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成27年9月9日）

- 議案・北大インターナショナルハウス伏見の寄宿料等及び運用について
- ・全学運用教員「総長管理」に係る取扱いの変更について
- 協議事項・全学運用教員の措置について
- ・年俸制教員に係る業績評価について
 - ・北大発ベンチャー認定制度について
 - ・諸規則の制定及び一部改正について
- 報告事項・北海道大学緑のピアガーデン2015の実施報告について
- ・環境報告書2015について
 - ・平成26年度構内入構車両の状況について
 - ・「北海道大学の施設管理2014」について
 - ・平成28年度以降の国立大学の学部における定員超過の抑制について
 - ・平成27年度オープンキャンパス及び北海道大学進学相談会（東京会場）開催結果について
 - ・教育関係共同利用拠点の認定について
 - ・医療法に基づく臨床研究中核病院への申請取り下げについて
 - ・平成27年人事院給与勧告について
 - ・障害者の雇用状況等について
 - ・平成28年度概算要求について
-

教育研究評議会（平成27年9月15日）

- 議題・諸規則の制定及び一部改正について
- 報告事項・北海道大学緑のピアガーデン2015の実施報告について
- ・教育関係共同利用拠点の認定について
 - ・寄附分野の設置について
 - ・平成28年度概算要求について
-

経営協議会（平成27年9月16日）

- 報告事項・大型プロジェクトの進捗状況等の報告について
- ・北極域総合研究拠点の創設について
 - ・平成28年度概算要求について
- その他・平成27年度人事院給与勧告について
- ・環境報告書2015について
- 意見交換・「国立大学改革」に係る本学の方策について
-

役員会（平成27年9月24日）

- 議案・諸規則の制定及び一部改正について
- 報告事項・東日本大震災で被災した本学学部志願者への受験支援金の給付について
- ・平成27年度運営費交付金の追加配分について
 - ・平成26事業年度財務諸表の承認について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学国際本部規程等の一部を改正する規程

(平成27年9月4日海大達第227号)

本年9月13日付けで、国際本部の北京オフィスを廃止することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学通則の一部を改正する規程

(平成27年9月25日海大達第228号)

北海道大学における特別聴講学生及び特別研究学生に係る授業料等の不徴収に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年9月25日海大達第232号)

平成27年度第2学期から、日本語・日本文化研修生について単位修得を可能とすること並びに日本語・日本文化研修生及び日本語研修生の身分を明確にすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学国際本部日本語・日本文化研修コース規程の一部を改正する規程

(平成27年9月25日海大達第229号)

北海道大学における聴講生等の検定料等の額に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年9月25日海大達第233号)

平成27年度第2学期から、国際本部日本語・日本文化研修コースを受講する外国の大学の学生を特別聴講学生として許可し、日本語・日本文化研修生として入学させることとすること、6箇月の研修コースを新設すること及び研修生が履修できる授業科目を定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学国際本部日本語研修コース規程の一部を改正する規程

(平成27年9月25日海大達第230号)

平成27年度第2学期から、国際本部日本語研修コースを受講する外国の国籍を有する者を日本語研修生として入学させることとすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学国際交流科目規程の一部を改正する規程

(平成27年9月25日海大達第231号)

国際交流科目の日本語科目を国際本部日本語・日本文化研修コースに所属する日本語・日本文化研修生が履修できるようにすること及び新たに日本語・日本文化研修コースの専門科目を追加することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス規程の一部を改正する規程

(平成27年9月28日海大達第234号)

国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程

(平成27年9月28日海大達第235号)

北大インターナショナルハウス伏見を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成27年10月1日海大達第236号)

国立大学法人北海道大学経営協議会規程等の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第238号)

国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第242号)

国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第244号)

国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第245号)

国立大学法人北海道大学情報公開・個人情報保護審査委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第246号)

北海道大学触媒化学研究センター規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第247号)

北海道大学触媒化学研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第248号)

北海道大学図書館委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第250号)

北海道大学アイソトープ総合センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第252号)

北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第253号)

北海道大学総合博物館運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第254号)

北海道大学保健センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第255号)

本年10月1日付けで、触媒化学研究センターを触媒科学研究所に改組することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第237号)

本年10月1日付けで触媒化学研究センターを触媒科学研究所に改組すること、工学研究院に置く寄附分野が新設及び廃止されること並びに平成26年5月1日付けで保健科学研究院に置く寄附分野が廃止されたことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第239号)

創成研究機構共用機器管理センターにおいて、分析料の変更を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学教育研究組織の長の任命等に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第240号)

名称の変更を伴う教育研究組織の改組を行う場合における改組後の教育研究組織の長の任期について、改組前の教育研究組織の長が引き続き改組後の教育研究組織の長になる場合に限り、改組前の教育研究組織の長としての任期の残任期間と同一の期間とすることができることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第241号)

本年10月1日付けで、学務部学務企画課の事務分掌を改めること及び触媒化学研究センターを触媒科学研究所に改組することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学全学運用教員規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第243号)

本年10月1日付けで、期間を定めない全学運用教員に係る取扱いを変更すること及び触媒化学研究センターを触媒科学研究所に改組することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学触媒科学研究所附属触媒連携研究センター規程

(平成27年10月1日海大達第249号)

本年10月1日付けで、触媒科学研究所の附属施設として触媒連携研究センターを設置することに伴い、当該センターの目的及び組織について所要の定めを行ったものです。

北海道大学情報基盤センター規程の一部を改正する規程

(平成27年10月1日海大達第251号)

平成27年10月1日付けで、情報基盤センターに置く研究部門を改組すること及びセンターにサイバーセキュリティセンターを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

■表敬訪問

国内

年月日	来訪者
27.10.13	北海道教育大学長 蛇穴 治夫 氏
27.10.22	株式会社島津製作所 代表取締役社長 上田 輝久 氏



北海道教育大学長 蛇穴 治夫 氏 (右側)

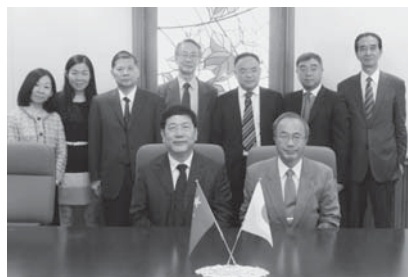


株式会社島津製作所 代表取締役社長
上田 輝久 氏 (右側)

(総務企画部広報課)

海外

年月日	来訪者	来訪目的
27.9.14	湖南大学 (中国) Zhao Yueyu 学長	両大学の交流に関する懇談



湖南大学 (中国) Zhao Yueyu 学長 (前列左)

(国際本部国際連携課)

■人事

平成27年9月14日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授	藤 野 陽 平	採用
【助教】 大学院メディア・コミュニケーション研究院助教	奈 良 雅 史	採用

平成27年9月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【講師】 大学院薬学研究院講師	渡 邊 瑞 貴	採用
【助教】 大学院農学研究院助教	中 島 大 賢	採用

平成27年9月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 (辞職)	坂 井 文	大学院工学研究院准教授
【助教】 (辞職)	小 林 陽 介 村 上 理 何 興 文 日 比 輝 正	大学院経済学研究科助教 大学院経済学研究科助教 大学院工学研究院助教 電子科学研究所助教
【技術職員等】 (辞職)	政 田 一 樹 外 崎 結 華 藤 田 和 華 子	北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院診療支援部臨床検査技師
【特任助教 (再雇用)】 (辞職)	水 野 守 道	大学院歯学研究科特任助教

平成27年10月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部局長・施設長等】 大学院地球環境科学研究院長 大学院環境科学院長 (任期：平成29年9月30日まで) 電子科学研究所長 (任期：平成29年9月30日まで) 触媒科学研究所長 (任期：平成28年3月31日まで) 電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター長 (任期：平成29年9月30日まで)	久保川 厚 西 井 準 治 朝 倉 清 高 西 野 吉 則	大学院地球環境科学研究院教授 電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター教授 触媒科学研究所教授 電子科学研究所教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<p>【副研究科長・副研究院長等】</p> <p>大学院地球環境科学研究院副研究院長 (任期：平成29年9月30日まで)</p> <p>触媒科学研究所副所長 (任期：平成28年3月31日まで)</p>	<p>大 原 雅</p> <p>長谷川 淳 也</p>	<p>大学院地球環境科学研究院教授</p> <p>触媒科学研究所教授</p>
<p>【教授】</p> <p>大学院法学研究科教授</p> <p>大学院情報科学研究科教授</p> <p>大学院理学研究院教授</p> <p>大学院公共政策学連携研究部教授</p> <p>触媒科学研究所教授</p> <p>触媒科学研究所教授</p> <p>触媒科学研究所教授</p> <p>触媒科学研究所教授</p> <p>触媒科学研究所教授</p> <p>触媒科学研究所教授</p> <p>触媒科学研究所教授</p> <p>触媒科学研究所教授</p> <p>情報基盤センター教授 (転出)</p> <p>名古屋大学大学院経済学研究科教授</p> <p>秋田大学大学院工学資源学研究科教授</p>	<p>吉 田 徹</p> <p>大 鐘 武 雄</p> <p>津 田 一 郎</p> <p>鈴 木 一 人</p> <p>朝 倉 清 高</p> <p>大 谷 文 章</p> <p>清 水 研 一</p> <p>高 橋 保</p> <p>中 野 環</p> <p>西 田 まゆみ</p> <p>長谷川 淳 也</p> <p>福 岡 淳</p> <p>南 弘 征</p> <p>工 藤 教 孝</p> <p>藤 原 憲 秀</p>	<p>大学院公共政策学連携研究部准教授</p> <p>大学院情報科学研究科准教授</p> <p>電子科学研究所教授</p> <p>大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>触媒化学研究センター教授</p> <p>情報基盤センター准教授</p> <p>大学院経済学研究科准教授</p> <p>大学院理学研究院准教授</p>
<p>【准教授】</p> <p>大学院地球環境科学研究院准教授</p> <p>大学院農学研究院准教授</p> <p>大学院農学研究院准教授</p> <p>大学院工学研究院准教授</p> <p>大学院工学研究院准教授</p> <p>北海道大学病院准教授</p> <p>北海道大学病院准教授</p> <p>電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター准教授</p> <p>電子科学研究所附属社会創造数学研究センター准教授</p> <p>触媒科学研究所准教授</p> <p>触媒科学研究所准教授</p> <p>触媒科学研究所准教授</p> <p>触媒科学研究所准教授</p> <p>触媒科学研究所准教授</p> <p>触媒科学研究所准教授</p> <p>触媒科学研究所准教授</p> <p>触媒科学研究所准教授</p> <p>触媒科学研究所准教授</p> <p>触媒科学研究所准教授</p>	<p>藏 崎 正 明</p> <p>小 池 聡</p> <p>小 林 謙</p> <p>鱒 渕 友 治</p> <p>山 本 拓 矢</p> <p>樋 田 泰 浩</p> <p>渡 利 英 道</p> <p>佐 藤 讓</p> <p>青 沼 仁 志</p> <p>小笠原 正 道</p> <p>小 山 靖 人</p> <p>KOWALSKA EWA KATARZYNA</p> <p>高草木 達</p> <p>中 島 清 隆</p> <p>中 山 哲</p> <p>安 田 友 洋</p> <p>叶 深</p>	<p>大学院地球環境科学研究院助教</p> <p>大学院農学研究院助教</p> <p>大学院農学研究院助教</p> <p>大学院工学研究院助教</p> <p>東京工業大学大学院理工学研究科助教</p> <p>北海道大学病院講師</p> <p>北海道大学病院講師</p> <p>電子科学研究所准教授</p> <p>電子科学研究所准教授</p> <p>触媒化学研究センター准教授</p> <p>触媒化学研究センター准教授</p> <p>触媒化学研究センター准教授</p> <p>触媒化学研究センター准教授</p> <p>触媒化学研究センター准教授</p> <p>触媒化学研究センター准教授</p> <p>触媒化学研究センター准教授</p> <p>触媒化学研究センター准教授</p> <p>触媒化学研究センター准教授</p> <p>触媒化学研究センター准教授</p>
<p>【講師】</p> <p>大学院法学研究科講師</p> <p>大学院法学研究科講師</p> <p>大学院医学研究科講師</p> <p>大学院薬学研究院講師</p> <p>北海道大学病院講師</p> <p>北海道大学病院講師</p> <p>北海道大学病院講師</p> <p>北海道大学病院講師</p> <p>北海道大学病院講師</p> <p>北海道大学病院講師</p> <p>北海道大学病院講師</p>	<p>石 神 圭 子</p> <p>TOBIAS ALEXANDER STRECKER</p> <p>安 部 崇 重</p> <p>倉 永 健 史</p> <p>加 瀬 諭</p> <p>河 上 洋</p> <p>橋 田 岳 也</p> <p>白 石 秀 明</p> <p>土 川 貴 裕</p> <p>納 谷 昌 直</p>	<p>採用</p> <p>採用</p> <p>大学院医学研究科助教</p> <p>採用</p> <p>北海道大学病院助教</p> <p>北海道大学病院助教</p> <p>北海道大学病院助教</p> <p>北海道大学病院助教</p> <p>北海道大学病院助教</p> <p>北海道大学病院助教</p> <p>北海道大学病院助教</p>

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
経済学研究科・経済学部	大久保 康 子	総務企画部広報課
医学系事務部総務課	久 保 美 月	総務企画部企画課
医学系事務部保健科学研究所事務課	福 永 理 恵	学務部キャリアセンター
函館キャンパス事務部	嵯 峨 華 子	理学・生命科学事務部事務課
函館キャンパス事務部	高 島 崇 寛	工学系事務部教務課
理学・生命科学事務部事務課	今 崎 光 佳	函館キャンパス事務部
農学事務部	武 隈 香	医学系事務部保健科学研究所事務課
メディア・観光学事務部	新 田 頌 子	理学・生命科学事務部事務課
工学系事務部教務課	西 郷 裕 子	財務部調達課
工学系事務部教務課	橋 明日香	学務部教育推進課
北海道大学病院管理課	齋 藤 沙 織	北キャンパス合同事務部
北海道大学病院医事課	木ノ内 明	北海道大学病院医療支援課
北海道大学病院医事課	山 加 真唯子	北海道大学病院管理課
北海道大学病院医療支援課	菊 地 綾 夏	北海道大学病院医事課
北海道大学病院医療支援課	毛 内 美 帆	北海道大学病院医事課
北キャンパス合同事務部 (転出)	高 崎 友 香	北海道大学病院医療支援課
帯広畜産大学	末 永 千 絵	法学研究科・法学部
【技術職員等】		
北海道大学病院看護部看護師	鈴 木 美那子	採用
北海道大学病院看護部看護師	藤 井 暁 子	採用
北海道大学病院看護部助産師	佐 藤 香 織	採用
触媒科学研究所技術専門職員	石 川 勝 久	触媒化学研究センター技術専門職員
触媒科学研究所技術専門職員	山 岸 太 平	触媒化学研究センター技術専門職員
触媒科学研究所	長谷川 貴 彦	触媒化学研究センター
触媒科学研究所	向 井 慎 吾	触媒化学研究センター
触媒科学研究所	下 田 周 平	触媒化学研究センター
触媒科学研究所	川 村 裕 介	触媒化学研究センター
【特任教授(再雇用)】		
触媒科学研究所特任教授	大 澤 雅 俊	触媒化学研究センター特任教授

部局長等(再任)紹介

平成27年10月1日付

地球環境科学研究所長・環境科学院長に

くほかわ あつし
久保川 厚 教授

久保川厚教授は、平成25年10月1日から地球環境科学研究所長・環境科学院長を務め、平成27年9月30日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成29年9月30日までです。

電子科学研究所長に

にしい じゅんじ
西井 準治 教授

西井準治教授は、平成25年10月1日から電子科学研究所長を務め、平成27年9月30日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成29年9月30日までです。

触媒科学研究所長に

あさくら きよたか
朝倉 清高 教授

朝倉清高教授は、平成26年4月1日から触媒化学研究センター長を務め、改組に伴い、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

新任教授紹介

平成27年10月1日付



法学研究科教授に

よしだ とおる
吉田 徹 氏

法学政治学専攻政治学講座

生年月日

昭和50年1月16日

最終学歴

東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位修得退学（平成17年3月）
博士（学術）（東京大学）

専門分野

ヨーロッパ政治, 比較政治



情報科学研究科教授に

おおがね たけお
大鐘 武雄 氏

メディアネットワーク専攻
情報通信システム学講座

生年月日

昭和37年3月2日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科修士課程修了（昭和61年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

無線通信工学



情報基盤センター教授に

みなみ ひろゆき
南 弘征 氏

サイバーセキュリティ研究部門

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成6年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

計算機統計学, コンピュータネットワーク応用

訃報

名譽教授 てらざわ こういち 寺沢 浩一 氏
(享年63歳)



名譽教授 寺沢浩一氏は平成27年9月4日に逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は昭和27年1月2日、東京都にお生まれになり、同53年3月北海道大学医学部医学科を卒業、同56年3月北海道大学大学院医学研究科博士課程を中退、同年4月北海道大学医学部助手として法医学講座に奉職されました。昭和58年6月北海道大学より医学博士号を受領、その後、講師、助教授と昇任され、同61年9月より同62年7月まで英国・リーズ大学法医学教室に留

学、平成4年1月北海道大学医学部教授に就任、同27年3月の定年退職まで34年にわたり、法医学の研究・教育に従事、同年4月に北海道大学名誉教授の称号を授与されました。定年退職後も特任教授として研究・教育、医学研究科の運営等に携わる半ばでのご逝去でありました。

先生は法医学者として死因究明等のための法医解剖（主に司法解剖）の実務に長年携わり、大きな社会貢献をされてこられました。警察・海上保安庁・検察庁等から依頼される法医解剖に誠実に対応され、これまで約3,000件の法医解剖に携わり、1,540件の法医解剖の執刀をされました。鑑定実務を第一とし、生じた問題を解決する目的で研究（調査・実験）を行い、得られた知見を実務に還元することを重視し、実務と研究は常に表裏一体であるという姿勢を貫かれました。学生の教育、人材の育成に関しても実務を中心にそれに役立つ研究を行うことにより人材を育て、大学院生はもとより、警

察、海上保安庁からも研修生を受け入れ、学位を得た者も少なくありません。

法医学全般に関する幅広い研究はもとより、教授就任以降は年齢推定・身長推定・窒息等における溢血点の発生機序・損傷の鑑定・死後経過時間の推定法等に関する法医診断学の研究を多数行い、多くの論文を発表されています。日本法医学会では長年、理事を務め、日本の法医学研究の発展と一般市民に対する法医学的知識の普及に尽力されてこられました。

教育・研究に対する厳しい姿勢をお持ちの一方で、穏やかで巧まざるユーモアを兼ね備え、洒落な俳句やエッセーをも物する文才を兼ね備えたお人柄を惜しまずにはおられません。

長年にわたるご労苦とご功績を偲びつつ、心からのご冥福をお祈り申し上げます。

(医学研究科・医学部)

名誉教授 やくわ としろう 八 利郎 氏
(享年87歳)



名誉教授 八利郎氏は、平成27年9月11日にご逝去されました。

先生は、昭和3年8月27日神戸市に生まれ、同26年3月北海道大学農学部を卒業、同28年3月北海道大学大学院研究奨学生修了後、同年6月北海道大学農学部助手、同40年7月同助教授、同60年4月同教授に昇任され、果樹蔬菜園芸学講座を担当されました。また、昭和40年10月から北海道大学大学院農学研究科農学専攻の授業を担当されました。平成4年3月北海道大学を停年退職し、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

本学在任中、先生は園芸学の研究と

教育に尽力されました。研究においては、野菜の中でも極めて重要なグループであるネギ属植物について、形態形成過程を独創的な方法により探究し、その機構を解明されました。この成果を取りまとめた論文「葱属植物の分けつ・分球に関する研究」に対し昭和37年1月北海道大学から農学博士の学位を授与されました。昭和41年1月から1年間、カナダ・サマランド研究所において園芸学の研究に従事され、帰国後はバイオテクノロジーを利用した園芸作物の増殖及び品種改良技術に関する研究を先導され、その発展の基礎を築かれました。また、アスパラガス及びヤマノイモ属植物の品種改良に関する研究にも精力的に取り組まれ、育種技術の発展及び新品種開発に成果を挙げられました。この「アスパラガスの超雄株を利用した全雄品種育成に関する研究」は学術的にも高く評価され、昭和59年4月に園芸学会功績賞を受賞しております。

研究以外では、学内において昭和62年8月から平成3年8月まで、農学部

附属農場長として、2期4年間管理運営に尽力され、農学教育の根幹を成す実習教育に多大なる努力を傾注されました。また、学外において北海道開発局国営土地改良事業調査専門技術者、農林水産省重要野菜必要入荷量作成検討会委員、北海道種苗審議会委員、札幌市菊まつり実行委員長及び北海道園芸会会長などを歴任され、斯界の発展に尽力されました。

学会活動においては、昭和56年4月から同61年3月の2期にわたり園芸学会評議員を担当されたほか、園芸学会平成3年度秋季大会実行委員会委員長を務められました。定年退職後は、北海道武蔵女子短期大学の専任教授、学校法人八紘学園北海道農業専門学校評議員及び理事を歴任され、教育の進展に寄与されました。

ここに先生の功績とお人柄を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(農学院・農学研究院・農学部)

名誉教授 いがらし きよし 五十嵐 清 氏
(享年90歳)



名誉教授 五十嵐清氏は、平成27年9月12日にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、大正14年5月12日に新潟でお生まれになり、昭和23年3月に東京大学法学部をご卒業後、東京大学特別研究生を経て、同25年4月に法経学部助教授として本学に赴任されました。昭和34年には法学部教授に就任され、同36年には北海道大学評議員、同41年

には法学部長・法学研究科長に就かれ、本学の管理運営にもご貢献されました。平成元年に定年退職されるまで39年もの長きにわたり、比較法、民法、国際私法などの教育、研究に従事され、本学法学部・法学研究科草創期の礎を築かれました。本学ご退職後は、平成元年から札幌大学法学部教授、同17年から北海学園大学法務研究科教授を歴任され、同20年3月にご退職されました。

先生は、日本における最初の比較法講座の担当者であり、比較法原論のパイオニアとして知られるばかりか、機能的比較法を具体的に民法の各分野に応用し、比較法が民法の解釈に有用であることを実証的に明らかにされました。具体的には遺留分制度、瑕疵担保、契約における事情変更の原則、人格権論などが挙げられます。また、研究者として自ら範を示されるとともに

厳しい姿勢で後進の指導に当たられ、多くの比較法、民法の研究者を育成されました。平成15年にはそれまでの功績により、瑞宝重光章を受章されました。その後もご逝去される直前まで研究の手を休められることはなく、生涯現役の研究者として90年にわたる生涯を全うされました。平成27年には名著『法学入門』の第4版、『比較法ハンドブック』の改訂版を刊行、ライフヒストリーを口述した『ある比較法学者の歩いた道 五十嵐清先生に聞く』を出版され、ご逝去の直前にはついにライフワークとされた『ヨーロッパ民法への道 現代大陸法への歴史的入門』を脱稿されました。研究者としての先生の矜恃を見る思いがします。

ここに謹んで先生のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

(法学研究科・法学部)

編集メモ

●日一日と秋が深まり、木々の彩り豊かな季節となりました。キャンパスでもイチョウをはじめ木々が色づいています。

●本年もイチョウ並木の黄葉状況に関するお問い合わせが数多くあり、観光客などたくさんの方が楽しまれています。24日（土）・25日（日）には北大金葉祭、25日（日）には一般開放が行われました。





2013.10.27 函館本線 然別～銀山（仁木町）

北の鉄道風景 31 錦秋の稲穂峠

函館本線の然別駅から銀山駅に至る界隈を地図で見ると、円弧状の山脈に沿って線路が敷設されていることが分かる。この山並は、赤井川村と仁木町の両町にまたがる赤井川カルデラの外輪山であり、函館本線や国道5号線が隧道によってこの山脈を横断する一帯は稲穂峠と呼ばれる。稲穂峠の中腹には、国道5号線に繋がる林道が伸びており、その林道には、函館本線を往く列車を俯瞰できる場所が幾つか

ある。写真は紅葉真っ盛りの稲穂峠、白煙を棚引かせながら山路を往くのはSLニセコ号である。この写真の撮影後、撮影地に程近い場所に、真新しい親子熊の足跡があるのを見つけて戦慄した。彼女らも汽車が走る光景を愛でるために出てきたのだろうか。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑩ No.739 平成27年10月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html